

TALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY



ICU ALUMNI
ASSOCIATION

3-10-2, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585

TEL&FAX : 0422 33-3320

<http://www.icualumni.com/>

E-mail : aaoffice@icualumni.com

ALUMNI NEWS
VOL.125 MAR.2016

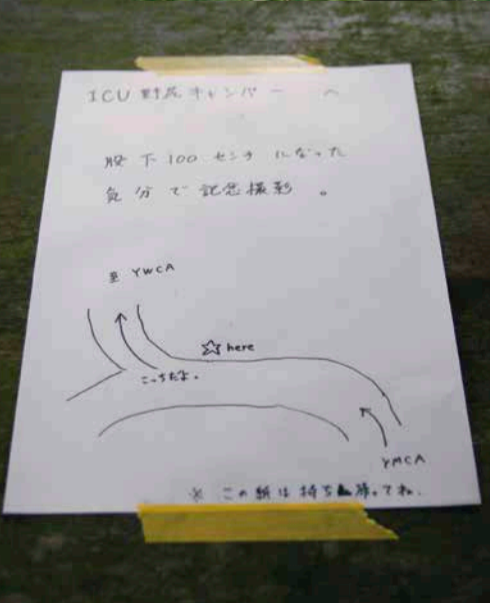
特集 野尻キャンプの真実

未来のキャンパスはどうか？

—キャンパス・ランドデザイン— : p.08

見開きアート:「日常」に込めた想い: p.12

桜祭りのご案内 : p.22



特集 野尻キャンプの真実

1956年に始まった「野尻キャンプ」が今年、60周年の節目を迎える。96年までは保健体育科主催で、その後は学生主体の運営で続いている。「かけがえのない仲間や思い出を得た、大学時代の大切なひととき」と心に刻む卒業生も多い一方、部外者には「謎」の部分も多い夏休みの恒例行事。今回はアラムナイニュース編集部が総力を挙げて「野尻キャンプの真実」に迫った。

文：堀内佳菜（本誌） 写真（人物）：石井雅仁（本誌） 写真（風景・カラー）：山田竜甫（49 ID05）



野尻っ子、キャンプの醍醐味を語る

昨年12月11日、20代から50代までのキャンプ経験者8人と顧問の高橋伸先生が東京都内に集まり、野尻キャンプの魅力について語り合った。

（文中の発言者は、「野尻スタイル」を踏襲して野尻ネームで表記します）



伸さん（高橋 伸）

TAKAHASHI, Shin

ICU保健体育科講師（課程上級准教授）。野尻キャンプ顧問。キャンプが体育科主催だった時代を知る数少ない人。

大学生が「子どもに戻って遊ぶ」意義

ホーリー（筆者）：かつては体育科が主催の野尻キャンプでしたが、学生主体となったきっかけは？

伸さん（以下、伸）：1997年、僕のリープのタイミングで、学生に任せたらどうかという話になった。僕がやりたい、みんなに伝えたいと思っていたことと、学生がやりたいと思っていたことが全然違ってきた。体育科でみんなにこうなってほしいと思っていたことと、学生のやりたいことにも相当の隔たりがあった。だから学生とのやりとりも大変だった。あれはすごく嫌だったな。当時の学生は、僕や体育科の先生を見ると目をそらすと思うよ。そういうヤツ多いと思う。

のびた：いや、そこまでではないと思いますけれど（笑）。

ホーリー：体育科がやりたかったキャンプ

とはどのようなものだったのですか？

伸：僕らの世代までかもしれないのだけれど、大学で（体育会系）クラブに入るといことは、スポーツをやりたいということと同時に、社会に出て役に立つ、大人になるための準備という意味があった。キャンプも社会に出て行くための準備と考えていたのだけれど、学生たちは、自分たちがもう一回子どもに戻っていく感じが強かったよね。

のびた：「自分たちが楽しく遊んじゃえばいいじゃん」というのはあった。ただ、運営側をやった人間だけかもしれませんが、社会に出る準備、という教育の面ではすごく学んだと思う。

伸：そうそう。そう考えるとね、みんなが一生懸命考えて成長して、良い社会人になっているわけだから、それはそれで良かったのかな。

Syo：子どもに戻るといいう手続きの中で、逆に大人になるための殻を破ったというよ

うな感覚がすごくありました。身体ばかり大きくなって、中身が大人になりきれなかった自分が、キャンプではお遊戯なんてしちゃう訳ですよ、大学生なのに。最初はすごくショックだったんですけど、それをすごく真剣にやっているうちに、なんかこう突っ張っていたところがはがれて素が出てきて、そこから自分の確立した自我みたいなものができたりしました。

今も残る夕拝

ちほ：私の世代が三隅達郎先生（注：初代保健体育科科长、コラム参照）の体育の授業を受けた最後の年代かと思います。本当に素敵な方で、体育を通しての人格形成などをすごく大切にされていました。私たちがキャンプに行ったころは、それがまだキャンプの中にも入っていたような気がします。

のびた：今もまだ感じられるのかもしれないけれど、もっとキリスト教色が残ってい



のびた(関 茂和)
SEKI, Shigekazu (28 ID84)

授業をサボってキャンプに申し込んだ経験あり。

たころかもしれないね。

伸：そうそう、必ず牧師さんは一緒にいったからね。

のびた：それこそ野尻キャンプの創設期、聖書朗読や厳肅な早朝礼拝があったと聞いています。

Syo：学生主催になる前の1996年までありました。僕は体育科主催キャンプの最後のスタッフだったのですが、当時いろんなことを見直して、本当にやりたいキャンプをしようとなったとき、キリスト教の色を出す必要があるのかというところから議論をしたんですよ。その結果、「伸さん、やめましょうよ」と話をした。でも大学の行事なのだから、モーニングサービス（早朝礼拝）は必ずやるとなった。ということで、私たちのころまでは夜どんなに遅くまで遊んでいても、ガーンと寝息を立てそうになりながらもやりました。でも、その後の見直しの過程の中でもベスパーは良いよねということで残っています。

ホーリー：ベスパーも、もともとは宗教的なものだったの？

伸：夕拝ね。まあ、「振り返り」だよ。

Syo：宗教っぽさはなくなったかな。だから夕方、ただボーっとする。静かに自分を振り返るといって、ベスパーの本質的な形で残ったと思っています。



Syo(西田 義雅)
NISHIDA, Yoshimasa (42 ID98)

NCC(運営委員)を経験。OBキャンプへも参加。



ちほ(竹嶋 千穂)
TAKESHIMA, Chihoko (31 ID87)

同じく授業をサボって申し込んだ経験あり。現在は大学で法哲学を教える。

のびた：瞑想の時間みたいになっているね。

ちほ：それは、ある一定の時間、誰とも話をしないという形で残っているの？

Syo：はい、それはルールとしてまだ残っています。

伸：建物の中にはいけない、人と話をしてはいけないというルールでね。

てつ：最近、建物の中にはいけないというルールは崩れつつある。

伸：そう、寝てるヤツがいるんだよな！（一同：笑）

時計、スマホのない5日間

ちほ：この座談会で、ぜひ聞きたかったことが一つあるのです。私たちがキャンプに参加したころは、日常生活から離れる手段の一つとして、腕時計を外させられたのですよ。それって今もあるの？

なめ：今は時計と携帯です。

ちほ：そうなんですね！今の時代、携帯はどうなっているのだろうと気になっていて。当時、腕時計を外させられるというのにすごく抵抗があったんです。今の学生にとって携帯がなくなった世界というのは、私たちが時計を手元から失う以上に困るでしょ。けれども、それを野尻キャンプは続けているのですね。

Syo：それは一つのアイデンティティー



なめ(吉田 夏子)
YOSHIDA, Natsuko (57 ID13)

NCC代表を経験。実は高校時代から東京YWCAの野尻キャンプに参加していた。



ある(大間 宏美)
OMA, Hiromi (34 ID 90)

キャンプに参加するも他の参加者のエネルギーに圧倒され、記憶が曖昧に。

になっていますよね。

てつ：逆に言うなら、日々どこにいても携帯でつながっている、LINEでつながっている状態に比べれば、キャンプ参加者は、キャンプ中、そこから一度“解き放たれる”という感覚をたぶん持っているのではないかな。

なめ：そう、それが魅力の一つにもなっている。それに抵抗があって参加できない人もいるけれど、逆にそういう生活がしたいって子もいる。でもキャンプ最終日に、黒姫駅（以前は帰京に黒姫駅を利用）で携帯が戻ってきた直後の最初の5分間くらい、誰もしゃべらないんですよ。（一同：笑）けれど携帯があることで、その場で連絡先を交換したりもしているかな。

けんや：僕は、キャンプが終わり、財布を返される瞬間に違和感を覚える。帰路途中の長野駅のコンビニでお菓子をかうとき、なぜお金を払わないとお菓子が手に入らないのだろうか。毎年、毎年、たった数日間そんな気分になっている。

敬語は御法度が野尻ルール

ホーリー：野尻キャンパー同士の会話は「タメ語」で、敬語の使用は御法度。昔から学年、年齢関係なくこのルールでしたか？



けんや(望月 健也)
MOCHIZUKI, Kenya (58 ID14)

NCCを経験。年を追うごとにコミットが増えている。



てつ(大間 哲)
OMA, Tetsu (34 ID 90)

OBキャンプにも参加。現在大学院でキャンプをテーマに修士論文を執筆中。

のびた：基本的には敬語は使わなかったけれど、僕らのころは参加者が80人もいたから、誰が何年生ってほしい分かる。部活に所属している人間同士で参加したり寮生も多かったから、お互いを知っていた。

ホーリー：じゃあ、既に上下関係があったのですね。

伸：だからキャンプネームに「さん」付けしたりしてたね（笑）。

なめ：私の時はIDはひた隠し、絶対タブーでした。名前もです。

ホーリー：私の時もそうでした。出身地なども隠してと言われたので、どこまで言って大丈夫で、どこから言ってはいけないのかドキドキでした。タメ語の使用は民主主義を広めるためフランクに話せた方が良かったと聞いたことがあるのですが、本当でしょうか？

伸：あまり聞いたことがないな。けれど、レクリエーション活動としての“遊び”には上下関係がないよね。レクリエーション分野の人たちは、ある意味平等感覚を持っているから、そういう意味ではあったのかもしれないね。

キャンプで人生の伴侶とも出会う

のびた：当時は、翌年のNCC(野尻キャンプ・コミッティー=運営委員)になる人た



ホーリー(堀内 佳菜)
HORIUCHI, Kana (51 ID07)

NCCを経験。本座談会の進行役。



座談会の様子

ちは投票で選ばれて、自分がやりたくなくても“選ばれちゃった”という人もいた。そして男5人、女5人で運営するのだけれど、時には仲が悪くなる関係も出てくる。それでも80人の参加者を引っ張っていかなければならない。

伸：その10人がまずコミュニケーションとるのが大変だったね。

なめ：男5人、女5人という感覚が今のICUには絶対ないですねー。

のびた：当時は男と女でキャンピングが5棟ずつあったから、一つのキャンピングにスタッフが一人ずつということだったんだ。

伸：男女の割合が半々だったから。デートタイムというプログラムもあったくらいだしね。

ちほ：今はないのですか？

なめ：今のICUじゃ、そもそもその発想が出てこないかも。

伸：だって山本先生（保健体育科講師の山本美実先生）はね、デートタイムで一緒だった人が今の奥さんだからね！

Syo：うちは僕がスタッフをしていたとき、うちの奥さんが初キャンだったの。初キャンの子にとっては、スタッフってなんだか輝いて見えるんだって。（一同爆笑）

伸：野尻の中でカップルになる人たちは多いんだよね。キャンプの中で（自分自身を）さらけ出すからなのかもね。

いたずらも真剣に

伸：ストームってももとは、キャンパーがキャンパーにやっていたものなんだよ。山本先生が担当だった時代は教員と学生のバトルだったみたい。先生たちも夜中に、

バケツに水を入れて屋根の上で待っていたらしいよ。いたずらをしに先生のキャンピングに忍び込んでくる学生たちに、水を上からジャーとかける。

のびた：当時は女子寮や男子寮もそんなことをしていたな。

Syo：伸さんから最初に教わったのは、帰り際、疲れてクタクタになっているキャンパーのリュックに石を入れておくという…（笑）

伸：石に「お疲れさま」って書いてね。自転車事件というのもあったな。キャンパーの一人が何かブツブツ言っているのを聞いてみたら、「出発前に体育館前に置いて来た自転車が、なぜかキャンピングの中にあるんです」って。そのときには参加していなかった友人のキャンパーが、わざわざレンタカーを借りて彼の自転車を運んで来たんだよ。

Syo：その自転車ストームは伝説として聞いていたんです。だから僕たちも何かしようと思って……。友人で家の鍵を閉めない不用心な男がいたんです。そこで家の中からちゃぶ台と彼のジャケットを持ち出し、彼のキャンピングに置いて、「あゆむくん、キャンプ場でもアットホーム」というストームをしたことがあります。（一同笑）

キャンプで食事はつくらない

ちほ：小学校、中学校のキャンプって食事をつくるのが一大行事。けれど、野尻キャンプではつくらなくていいでしょ。とても新鮮でしたね。

伸：食事をつくと、一日がそれで終わってしまうんだよね。つくって食べて片付けて。日本はそういうキャンプが多かった。

自分でごはんをつくって食べるというのが新鮮だった。だからすごく流行った。

Syo：一般の人のイメージは、ごはんをつくって食べるのがキャンプですよ。

伸：そうそう。けれど、僕たちがやっているのはオーガナイズドキャンプ（教育的目的を持った計画的なキャンプ）で、野尻のキャンプサイトも北米から入って来た滞在型のキャンプ場。衣食住が確保されていて、何をするかというとレクリエーション活動で“遊ぶ”。自分たちでゲームを作ったり、特に野尻は水場があるのでボートに乗ったりね。

なめ：私がスタッフのときは説明会を何度も開いて、野尻で行う一つひとつの活動を丁寧に伝えました。

誰もが主役のキャンプ文化

ホーリー：野尻の良さを象徴する点を一人ずつ挙げていただけますか。

ちほ：罰ゲームとともに、「誰々がこういう良い事をやっていました」と、みんなにスポットがあたるような表彰制度がありましたよね。

Syo：みんなを“舞台”に立たせるというのが一つの活動としてあるよね。

てつ：野尻には誰もを受け入れようとする文化があると思う。今の社会がどんどん“排除の論理”に向かう中では、野尻キャンプにある“包摂の文化”はすごく大事なことだと思うんだ。

なめ：野尻に行けば出せる人格がある。そこで出したい自分が出せる。居場所がある感じ。我慢しなくていいし、がんばらなくていい。

かつてのメインホール「キッツキホール」



高橋伸先生が語る「野尻キャンプと三隅達郎先生」

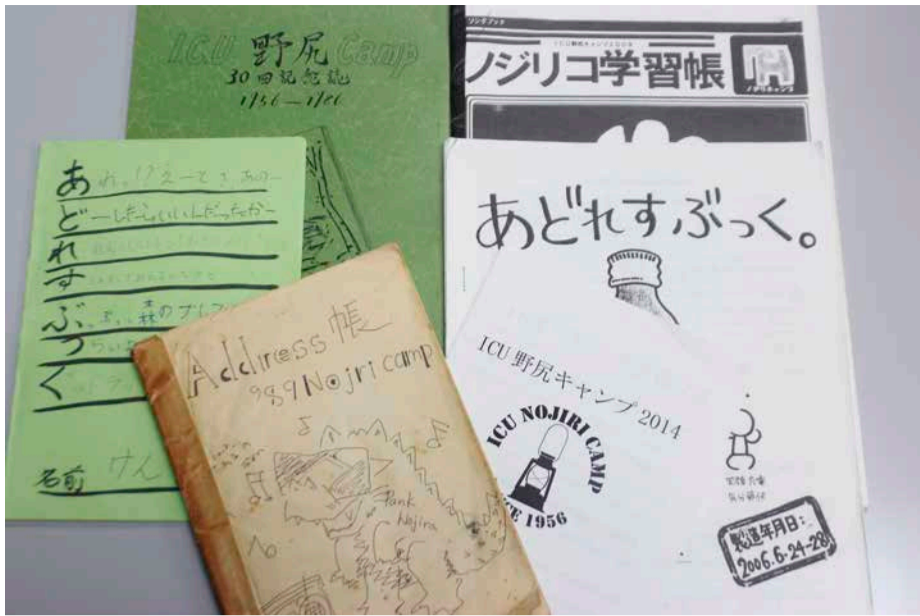
野尻キャンプ創始者の三隅達郎先生は神戸出身で、早稲田大学に進んで経済学を勉強していた。そこでセツルメント運動に出逢った。東京の貧民街にコミュニティーセンターのようなものを作って、キリスト教団体などが生活支援を行う社会事業だ。彼はセツルメントの活動の中で、小林弥太郎という人と出逢う。

小林は東京YMCAで青年部を長年手伝っていて、米国留学中に現地のキャンプも見てきており、日本のキャンプ普及を考えていた。最初は山中湖にキャンプ場のための土地を買ったが（現 東京YMCA山中湖センター）、米国でのキャンプ会議に参加した帰りに、カナダのキャンプ・アーメックというところに立ち寄り、このようなキャンプをやりたいと場所を探し、1932年、野尻にキャンプ場を作った（現 東京YMCA野尻湖キャンプ場）。そこで野尻学荘という名のキャンププログラムをはじめ、今日まで続いている。日本で一番古いキャンププログラムだ。

三隅先生も、小林弥太郎のキャンプを手伝うようになる。そしてトロント大学に社会事業の勉強のため留学し、そこでカナダのキャンプを知ることになる。戦後は民主主義を広げるためにも、キャンプやレクリエーション活動に取り組んで活躍した。そしてICUに初代保健体育科の科長としてやってきた。彼は体育の専門家ではなく、レクリエーションの専門家だった。そして学生たちのために、1956年に野尻キャンプを始めたのだった。

1970年の水プログラム





キャンプ終了時に配布される参加者のプロフィール帳「あとれすぶく」ほか

でいってくださっているのかなと今日分かって安心しましたし、また何かの形で参加していきたくて思いました。

のびた：当時はただ一生懸命、10人でどう上手く運営して行くかを苦勞したのが思い出かな。それは楽しかったことなんですけどね。卒業して30数年経つけれど、野尻ネームで呼び合ったり、旅行に行ったり。高校まではバリバリの男子校だったので、面白い学校に入りたくてICUに入り、また野尻に行ったことで新しい価値観に触れ、自分の中の幅が広がった。社会に出てからも、人と接するときに余裕をもって接することができるようになったかな。

キャンプの中の「ICUらしさ」

のびた：ちほさんが、今も野尻キャンプの良さは引き継がれていると話してくれたが、その根本には参加者全員がICU生としてリベラルアーツの精神を感じており、それを野尻キャンプという場所で、どのように自分を表現していくのかという部分が変わっていないのだろうと僕も思った。例えば他の大学の人がやったら、我々と全く違うキャンプになっていると思うんです。それぞれ解釈の違いはあるにせよ、リベラルアーツというベースがあるので、何がしか(過去と現在の野尻キャンプは)つながっているという共感があるのではないかな。

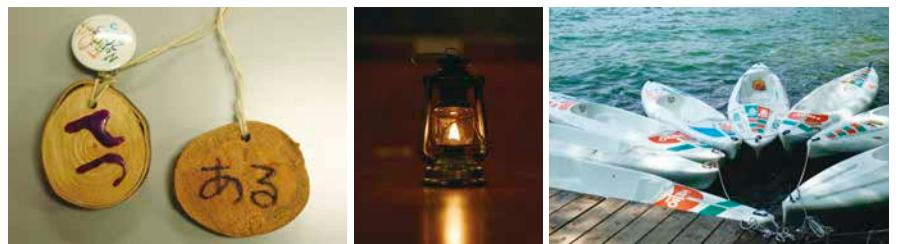
伸：自分はキャンパーではないし、立場が全然違うじゃない？だから、見方が自ずと違うわけだけれど、一番大きな違いを感じるポイントって、スタッフのやり方だね。僕ら(体育科)にすれば、スタッフというのは経験を積み重ねて覚えていく。そして、

自分の実力として身につけていってほしいというのがあった。けれども、君たちは頑なに「スタッフは1年で交代」と主張した。あるキャンパーと話してみても、その理由がようやく分かった。困ってジタバタして、頭の中が真っ白になった状況でも、何か行動しなければいけない。その経験が、すぐみんなにとっては宝なんだよね。だから、その経験をより多くの人にやらせたいというのがあって、次はやらないという方針の学生スタッフが多かった。確かに、そういう困る経験って人を育てるものだ。キャンプという現場が目前にある訳だから。

ある：私は野尻キャンプの雰囲気に合わなかった人です。楽しかったはずですけど独特の雰囲気に圧倒されていました。でも、縁あって野尻キャンプ同期と結婚したことで、また野尻キャンプに触れることになりました。

ホーリー：野尻キャンプファンが多い中、そのようなコメントを聞けるのはとても嬉しいです。全ての参加者が「良い」と感じるキャンプをつくることは難しいですよ。だからこそ、いろいろな意見もフランクに受け止められる「包摂の文化」を持ったキャンプがこれからも続いてほしいと思います。

60周年を迎える野尻キャンプは、現在、記念リユニオンやキャンプの開催を検討中で、幅広い世代の協力・参加を募っている。詳細は同窓会Webサイトなどでお知らせする予定。



【野尻用語集】

キャビ交(Cabi-kou)

キャビン交歓の略。宿泊施設であるキャビン単位で他のキャビンを訪ねて交流する時間を指す。

duty

掃除のこと。キャビンごとに分担がある。最終日には「大duty」＝大掃除を行う。

初キャン(Hatsu-cam)

初参加のキャンパーのこと。

いのち(Inochi)

首からぶら下げる名札。輪切りにした樹幹がネームプレートになっている。水泳やボート、ヨットなどの水上アクティビティを行う際には安全管理アイテムとして厳しく扱われる。湖に入る時には監視員に「いのち」を預けることで自分が水遊びをしていることを示し、陸に上がる時に再び「いのち」を受け取る。

ランタン(Lantern)

キャンプ中は立派なロッジ風キャビンに滞在するが、電灯はなくランタンの灯で生活をする(トイレや集会施設には電灯あり)。

水プロ(Mizu-pro)

水プログラムの略。野尻湖でボート、カヤック、カヌー、SUP(スタンドアップパドルボート)、水泳などを行うこと。

NCC

Nojiri Camp Committee の略。会話上では「N」と省略されることもある。キャンプ組織の運営からキャンプ中の進行など全てを担う、いわゆる幹事的存在。時代の変化とともに呼称も変わり、最近では「運営委員」「スタッフ」などと呼ばれている。

野尻ネーム(Nojiri Name)

キャンプ中に使われるニックネーム。別名キャンプネーム。キャンプでは、素の自分をさらけ出せるように本名を明かさないとこのルールがあるため必要となる。

オプションプログラム(Optional Program)

山登り、サイクリング、アーチェリーなど、陸上で行うレクリエーションプログラム。好きなものを選んで参加できる。

ストーム(Storm)

いわゆる悪戯のこと。OB/OGやキャンプに参加していないメンバーが、キャンプ参加中のメンバーにこっそり仕掛けるもの。一般的に、かなり気合いと愛情が込められていることが多い。

ベスパ(Vesper)

夕拝。夕方しばらくの間、他の人と話をせず静かに過ごす時間。もともとは宗教的な意味合いがあった。



自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ 多言語自然キャンプ

世界中に
友だち
つくろう!

小学生～大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育むプログラムです。

【国内キャンプ】(3泊4日・長野・小4～大人)

- 雪の学校：雪の活動と多世代・多言語交流。
- Nature Camp：夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後・8月開催)

- アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ
中1～大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
- アジア青年多言語合宿&ホームステイ
高1～大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。



Multilingual Natural Immersion

どんなことばにも開かれた心を育てる



多言語を学ぶ意味

大和田康之 (国際基督教大学1期生)

私がこれからを担う真のリーダーシップについて必要だと思うのは「多言語を話す」というスタンスです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値観を持った人を自分の中に受け入れる」ということ、「寛容」ということです。それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポではまず相手の母語を大切にしようというスタンスで多言語を育てています。そんな世界が広がっていくことに、ことばを学ぶことの本質的な意味があるのではないのでしょうか。

●お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから



一般財団法人
言語交流研究所

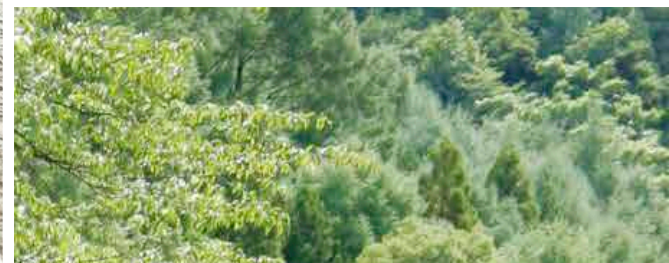
ヒッポファミリークラブ

0120-557-761

受付時間
平日9:00
～17:30

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F
TEL.03-5467-7041 <http://www.lexhippo.gr.jp/>

ヒッポ 検索



ひたすら遊ぶ! 野尻キャンプの1日を公開

野尻キャンパーである筆者は、キャンプ経験のない友人からよく「キャンプでは何をするのか?」と聞かれる。そんなときは「ひたすら遊ぶよ」と答えるが、たいてい怪訝な表情をされる。筆者もキャンプに参加する前は、成人前後の良い年をした大学生たちが、数日間ひたすら遊ぶということが理解できなかった。率直に言って、すぐに飽きてしまうのではないかと思っていた。だがキャンプに参加してみると、そんなことはない。飽きることなく、ひたすら遊び続ける。ここでは、あくまで一例であり、紙面で表現できないこともあるが、どのような生活を野尻湖の湖畔で送っているのか概要を紹介したい。

文：堀内佳菜（本誌） 写真（カラー）：山田竜甫（49 ID05）

初日	夜、ICUからバスで出発、船に乗り換えてキャンプサイトに到着する時計・携帯電話はICU集合時またはバスの中で回収される
標準的な1日	起床
	旗揚げ、朝食、duty
	水プログラムまたはオプションプログラム
	昼食
	水プログラムまたはオプションプログラム
	フリータイム
	バスパー
	夕食
最終日	レクリエーション
	キャビン交歓
	就寝
最終日	最寄り駅で時計と携帯電話を受け取り、解散



野尻キャンプに興味を持った人は、こちらをご覧ください!
<http://nojiricamp.com/>

A Interview

キャンプディレクター 加藤綾音(55 ID11)

野尻キャンプOGにはキャンプを仕事にしている人がいる。そう聞いて、ちょうど上京していたご本人、加藤綾音さん(神戸在住)に話を聞いた。

文: 飯泉文子(本誌) 写真: ICUサービス

キャンプが日常にある生活

野尻キャンプOGにはキャンプを仕事にしている人がいる。加藤さんは、地元神戸で子どものころからキャンプに慣れ親しんで育った。野尻キャンプには毎年参加し、コアスタッフとしてキャンプの企画にも携わった。卒業後の今、彼女はキャンプに参加するだけでなく、キャンプの企画運営を職業にしている。多いときはひと夏に5本ものキャンプのコーディネートをする。「いくつもの少しずつ異なる団体のキャンプに参加してきたので、様々な視点からキャンプを分析できる」のが強みなのだとか。

キャンプが日常の一部となる生活とはどういう世界なのだろうか。「キャンプの概念ってとにかく多様なんです。山の中でテントを張って飯ごうでごはんを炊くだけがキャンプではありません。」いわゆる一般的にキャンプと言えば、「テントを張って…」と連想されるのがオートキャンプ。それに対し、小中学校の林間学習や野尻キャンプも含め、宿泊場所は屋内であったり、食事も提供されたりする中での安定的な集団生活をベースに自然の中でのアクティビティが企画されるようなキャンプもある。これらは「組織キャンプ」と分類される。加藤さんがコーディネートするキャンプもこの「組織キャンプ」に当たるものが多いという。

福島の子供たちと

加藤さんはICUを卒業後、東京で会社員生活を送っていたが、だからといってキャンプから離れていたわけではない。卒業し

たばかりの2011年夏、東日本大震災に伴う原子力発電所の事故の影響で、自由に外遊び出来ない福島の小学生16人を招いて、18泊にわたるキャンプを企画・運営した。この「三鷹子どもの楽校」は、地域の市民有志による街キャンプで、社会人・学生ボランティアのほか、地域の様々な会社や団体を巻き込んで開催したもの。会社で地域社会窓口として働き、地域の企業や身近な人たちに声掛けしていたネットワークが生きたのだそうだ。このキャンプは子どもたち主体で作上げるプログラムも多く、子どもたちが思いっきり遊びながら、たくさん笑い、のびのびと過ごせるキャンプ空間を作り出した。子どもたちを送り出した親御さんたちからも好評で、続いて2012年、2013年にも同様のキャンプを行った。

子供たちにとってのリベラルアーツ

「三鷹子どもの楽校」での手腕を買われ、加藤さんは、ICUサービスが2012年から開始した子ども向けのジュニアキャンパス・キャンプのプログラムディレクターも務めるようになった。このキャンプは、ICUのリベラルアーツ教育の理念に基づいた物事の考え方を、「遊び」を中心に据えながら子どもに体験してもらうことが目的で、子どもは好きなことを自分で見つけて取り組むという。部屋割りも当日子どもたちに決めてもらうというユニークなキャンプだ。

加藤さんにリベラルアーツ教育とはと聞くと、「ピンチをチャンスに変える力」で

あると返ってきた。この言葉はジュニアキャンパス・キャンプの標語にもなっている。一言では言い表せないリベラルアーツという言葉、普段その言葉を耳にしない子どもの親御さんたちにどうしたら伝わるかを考え、かみ砕いて表現した。例えば部屋割りなど大人が事前に決めてしまえば簡単だが、時間がかかっても初対面同士の子どもたちが話し合いの中でそれぞれに判断して決めることに意味がある。みんなでじっくり話しあうことでチームの連帯感が生まれる。このような、キャンプを通じて考え方のプロセスを実践で学ぶ点が、リベラルアーツ教育に通じている。

子ども向けのキャンプでありながら、「キャンプリーダーである学生の成長の場にもなってほしい」という思いもある。加藤さんは、学生リーダーのリーダーシップ・トレーニングを行い、プログラムの企画から進行まで基本的に全て任せている。学生リーダーたちは、子どものロールモデルになりつつ、企画段階から携わることにより、どうしたらより良いキャンプになるかと「考え続けながら」活動に参加する。リーダーの中には野尻キャンプのOB・OGも多い。

Camping in Residenceを目指して

「キャンプという限られた空間は、『生活』という身近でしかし複雑な対象に向き合う場なんです」と加藤さんは言う。キャンプの中でも日常生活と同じように失敗することもある。けれどもキャンプだからこ



かとう あやね
KATO, Ayane
数年間の会社勤めを経て、現在は地元神戸をベースに子ども向けの野外活動に関わる仕事をしている。キャンプディレクター、地域福祉ファシリテーター、コミュニティカウンセラー、間(あいだ)スペシャリストなど様々な肩書を持つ。通称あやねえ。
katoayane.com

そ、思いっきり挑戦して、失敗できるのだ。「例えば水泳でうまく泳げなくても、料理がうまくできなくても、それはそれ。その1つのことだけがキャンプのすべてではない。キャンプはすべてを含んだ生活。共に居ることそのものが目的だから」

現在、ICUでのジュニアキャンパス・キャンプの仕事に加えて、地元神戸のNPO法人「S-space(スペース)」で毎週幼児向けのデイキャンプの引率をしている。このプログラムでは3歳児からみんなで行き先を話し合う。そして幼稚園後の半日の時間を楽しむのだそうだ。行き先を公園にするか海にするかと話し合ううちにぶつかりあって泣き出す子もいたりする。けれども話し合うプロセスも大事なキャンプの一部なのだ。決まるまで話し合って納得した行き先に行く。一日の終わりには泣いていた子も笑顔をいっぱいにしてみんな一緒に遊ぶ。

加藤さんの名刺には、Camping in Residenceという言葉が添えられている。特別なイベントというだけではなく、その仲間との関係性や機会といった意味で、日常レベルにまでキャンプという概念が下りてくるようにという願いを込めて。「世界平和とは何か、と大きいことを考えたりもするけれど、本を読んだりする勉強とは対照的に、体で感覚として学ぶ場を提供するのがキャンプの役割」。マイクロレベルの人と人の触れ合いの間でどんな関係が生まれるのか、どんな反応が起きるのか、加藤さんは「間(あいだ)研究家」として今日も探っている。ひとりでも多くの人にキャンプのようなチャンスが身近になればいいと願う。

ICU構内で行われるジュニアキャンパス・キャンプのひとつ



未来のキャンパスは どうなる？

新本館、新々D館、野外劇場も…



隈研吾氏が キャンパス将来構想を説明

ICUのキャンパスが、今後10年間で大幅にリニューアルされる。築70年を超える本館にとうとう建て替えの見通しが出てきたほか、新体育館や新々D館の建設、学内住宅や野外劇場の新設も計画されている。キャンパス・ランドデザイン(将来構想)の策定にあたった建築家の隈研吾氏(左写真)が昨年9月18日、青学会館で行われた同窓会評議員会の場で詳細な説明を行った。

文：石井雅仁(本誌) 写真：長橋典子(本誌)

隈研吾
KUMA, Kengo

隈研吾建築都市設計事務所主宰、東京大学教授。1954年生まれ、木材を使うなど「和」をイメージしたデザインを多用し、「和の大家」とも形容される。近作にサントリー美術館、根津美術館など。2019年完成予定の新国立競技場のデザイン・建設も手掛けている。

ウィリアム・メレル・ヴォーリス
William Merrell Vories

(1880-1964) 米国生まれの伝道者、建築家。1905年に来日し、教会やキリスト教系学校の建築を多く手がけた。「近江兄弟社」創立者の一人でもある。ICUでは本館、大学礼拝堂(第1期)、旧館(東棟)、シーベリー記念礼拝堂をヴォーリス建築事務所が担当した。

説明会には隈氏のほか株式会社日本設計の幹部、大学から北城恪太郎理事長らが出席。同窓会側は評議員だけでなく、多くの同窓生が参加した。

2つのQuadrangle

隈氏によると、将来構想(案)の「核」となるのはバカ山・中庭を中心に、四角形に主要な建物を配置する“Academic Quadrangle”と、チャペルを中心にロータリー周辺まで伸びる“Symbol Quadrangle”という2つのゾーン。この2つを結ぶ「はっきりした動線」(ひさしの付いた回廊)をつくる。

“Academic Quadrangle”は新本館や新々D館、現在の図書館などで構成し、バカ山・中庭を縁取る形で配置される。旧D館(東棟)は取り壊しとなる模様。ゾーンのシルエットは、ICU創立当時のキャンパス計画を担ったウィリアム・メレル・ヴォーリスのデザインを継承し、「シンプルだが格調高い」ものとする。

「文理融合」の新本館

新本館は現在の本館の北側に、バカ山・中庭の西辺にも張り出すような「L字形」で建設。現本館のイメージを継承できるよ

うな建築デザインを心掛けるという。大きな特徴は「文理の融合」で、完成すると現本館だけでなく、N館も取り壊しとなる模様だ。本館は教室と廊下だけで構成するのではなく、グループ学習やプレゼンテーション型授業にも対応できる「ラーニングコモンス」やアトリウムラウンジなどもつくられる。自然換気を生かした「空調になるべく頼らない建築」(隈氏)で、館内に“プラントファクトリー”を設置する構想もあるという。

新々D館は“Academic Quadrangle”の西辺につくられる計画。「回廊」は新本館と新々D館、ダイアログハウス、食堂、新々2寮、体育館を結ぶ。

チャペル周辺の景観守る

ランドデザインの策定にあたって、隈氏は①環境を最適化するゾーニング②キャンパスの中心となるQuadrangle③DNAの継承とアカデミック・アクティビティの改革④自然と調和した美しいキャンパス⑤安全で快適な動線⑥エコキャンパス・合理的なエネルギー計画——の6つを基本方針に掲げた。景観に関しては、チャペル周辺は建物の高さを低く抑え、そこから離れるにしたがって徐々に高い建物を配置するよ

う計画したという。

現在はさまざまな施設が入り混じっている状況を、機能に応じて整理する「ゾーニング」計画も提示。▽新本館を中心に再整備するアカデミックゾーン▽チャペルの軸線から南側のスポーツゾーン▽学生寮ゾーン▽点在する学内住宅を集約したゾーン▽新々D館に加え、野外劇場やキャンプサイト、アドベンチャー設備などを備えた学生活動ゾーン▽野外教育研究の自然ゾーン——を挙げた。

新施設計画がめじろ押し

建て替え計画だが、現在建設中の新々2寮は2017年に完成予定。今後は体育館や新本館、学内住宅などが順次個別に検討されていく見込みだという。旧D館がなくなることによる教会活動への影響については、教会隣に「小さな施設をつくる」方向で調整している。隈氏は説明会で、新本館はじめ各施設の完成時期を示したが、大学側は「あのスケジュール案で固まっちゃいけない。加えて、隈氏が今後、新国立競技場の仕事にかかりきりになることが予想され、大学としては今の段階で時間軸を示すことはできない」としている。

北城理事長は「施設が老朽化し、耐震性の問題や教育環境整備の必要性から、建て替えが必要な時期にある。全体構想をつくってから一つひとつの建て替えに取り組んでいく」とキャンパス・ランドデザイン策定の意義を説明。同窓生や教職員などの意見も聞きながら「順次進めていきたい」と語った。

参加者の感想

▶3期 女性 ひさし付きの「回廊」に違和感を持った。見上げて空や風景が見えない。雨に濡れないようにというのは、学生に甘すぎるのではと感じる。景観の点から見てもどうなのか。

▶ID00 女性 海外の大学の成功例など、グッドプラクティスを取り入れていると思った。プランの統一感がいい。いろんな専攻の人が集まり、コミュニケーションが活発になりそう。

▶ID03 女性 バカ山が残るといってホッとした。新本館の「文理融合」は近未来的な感じがする。「回廊」のプランは、便利になっていいのでは。

▶ID08 男性=ゼネコン勤務 この将来構想が実現したICUに入学してみたかった。工事に合わせて、学生向けに建築の授業をやってみたらどうか。

▶ID04 女性 キャンパスの雰囲気が変わってしまうのではと心配していたが、「DNAを継承する」との説明を聞いて安心した。防災対策や動線の話も的確に答えていただき、熟慮されたプランだと感じた。

▶ID12 男性 ゾーニングが気になった。今のキャンパスでもゾーニングははっきりしている。さらにはっきりされると交流が無機質にならないか心配。寮が点在しているのはいいこと。寮生が固まるのは良くないのでは。

キャンパス・グランドデザインをどう見るか

本誌で長年「ICUキャンパス物語」を連載し、2010年から12年に

ICUキャンパスマスタープラン委員会（報告はアラムナイニュースVol.119）で委員を務めた同窓会理事、本誌編集スタッフでもある榊島榮一郎（37 ID93）が、今回の評議員会での発表を解説する。

文：榊島榮一郎（本誌） 写真：松島眞理（36 ID92）

最初に個人の見解とお断りしたうえで、評議員会の発表と独自の取材に基づき、今回の構想に対する私の考えを述べたい。

まず、前回のマスタープランから3年で新プランを再策定した意図を大学に聞いたところ、マスタープランはキャンパスの現状調査を主にしたものであり、今回のキャンパス・グランドデザイン（以下CGD）はそれを前提に、創造に重きを置いたものだという。

これは確かに感じられた。今回のプランは日本設計と隈研吾建築都市設計事務所の制作で、法人理事と大学幹部が参加したプレゼンテーション・コンペにより4事業者の中から多数の支持を得て選定されている。日本設計は、国内第二位の大手組織設計事務所、隈事務所は隈研吾氏（以下、親しみを込めて隈さんと呼びたい）の個人事務所である。隈さんは東京大学を卒業後、日本設計などを経て1991年に事務所を設立、1990年代前半に、ギリシャ建築をデフォルメして引用するなどのポスト・モダン建築で一世を風靡した。その後、地方の古い劇場の移築・保存プロジェクトなどを契機に、威張らない建築という意味で「負ける建築」という言葉を打ち出し、木材を使った和風ともいえる軽快な作風や、古い建物の保存・活用などで知られるようになった。前者では、ONE 表参道（2003年）や浅草文化観光センター（2012年）、後者では旧東京中央郵便局の一部を保存再生した商業施設KITTE（2013年）や歌舞伎座の建替え（2013年）などがある。

今回のプランでは、ICUの初代建築家であったヴォーリズの構想したクアドアングル^{注(1)}の再生、強調という部分が核心で、隈さんの発想・個性・創造が最も感じられる部分だと感じた。そして、それを実現するのがクアドアングルを囲む建物にひさしを付け、広場をふちどるという案である。僕には、隈さんの木材を使った軽快なひさ

しが想像でき、それによって強調される広場と、その広がりはいいなと率直に思った。質疑応答では、キャンパスの自然を感じにくくなるからひさしに懸念、とのコメントが複数あったが、確かにICUキャンパスは、自然との繋がりが濃厚に感じられる空間で、それが良さだから減じられるべきではない。だからこそ、隈さんは、きっと自然を減じることがない「負けるひさし」を作ってくれると思うのである。

とはいえ、全く課題がないわけではない。今回のプランでも、長年、課題となっている（と僕が感じる）動線の問題は依然残っている。クアドアングル内は徒歩移動となっていたが、自転車で移動したくなる距離以上にクアドアングルが広がっており自転車をどう運用するのか、結婚式の際など教会前まで車を入れる場合はどうするのか、といった問題が感じられた（大学も今後さらに検討すること）。また、ヴォーリズの構想した、正門からのピスタの焦点に教会があるという視覚効果が、バス停ロータリーまでクアドアングルが拡張されることにより、やや弱まるかもしれない。

ゾーニングに関しては3年前とさほど変わっていない。これは、旧プラン策定時感じたが、希少植物や遺跡による開発困難な部分、水道・下水などのライフラインのアクセス、固定資産税の問題などを総合的に考えると、ほぼ同じ結論に達するからだろう。

今回のプランは率直に言って、ここ20年ばかりの間のキャンパスの建築計画やプランの中で一番いいと思ったし、レベルの違いを感じた。建築ファンである僕個人としては、日本を代表する建築家の一人である隈さん（と書いている時に、新国立競技場の建設で隈さんのプランに決定したとのニュースが入った）の創造をぜひとも見たいという気になったのである^{注(2) 注(3)}。



ヴォーリズが1949年に描いた本館前のクアドアングルのスケッチ。正面が本館、左が教会、右が図書館となっているが、その後、教会は正門の正面に建設されることになった（提供：国際基督教大学図書館）



現在の本館前クアドアングル。当初構想とは異なるがICUを象徴する素晴らしい空間だ

注

- (1) クアドアングル (quadrangle) は、建物に囲まれた四角い広場を意味し、英米で大学キャンパスの構成法として一般的である。
- (2) 大学より以下のコメントがあったので付記する。「個々の建物については、建て替えかどうかも含めてこれから詳細を検討するものであり、建設が決定しているのは「新々2寮（仮称）」だけで、その他は最終決定ではない。CGDは、それらを検討する上での前提で、変更もあり得る」
- (3) CGDの図表はスケジュールの都合上、掲載できなかった。大学のWebページでCGD公開が予定されているので参照いただきたい。

お孫さまへの『想い』を形にしませんか？

教育資金贈与信託〈愛称：孫への想い〉



「教育資金贈与信託」は、30歳未満のお孫さま等への教育資金として当社へお預け入れいただき、当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、教育資金をお支払いする商品です。

- 5,000円からお申し込みいただけます。
- 贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

教育資金としてしっかり管理

払い出し前に、三井住友信託銀行が教育資金のお支払いであることを確認します。



贈与される方の『想い』に応えます。

贈与額1,500万円まで非課税

【対象例】



学校等

そのうち学校等以外への
お支払いは500万円まで



無料！

管理料

払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494

受付時間 平日9:00～17:00(土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません)

お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

孫への想い

検索

その人を信じて、その人に託す。 Meet The Trust Bank

 **三井住友信託銀行**

突撃! 気になるあの“メジャー”

第12回 西村幹子上級准教授(教育学)

教え、育む一連の行為、教育。誰に何をどう教えるべきかという問いは、生きる上で必要な知とは何なのか、どんな知を備えた人間が社会や地球環境にとって有益なのか、という問いにも通じる。他の研究分野への理解なくしては成り立たない教育学には、まさにリベラルアーツの発想が求められているのではないかと。ICUの教育学メジャーの今とこれからの、西村幹子上級准教授に伺った。

文・写真:小林智世(本誌)



国際教育協力活動で訪れたケニアの「考えるキリン」を手に

グローバルな教育観と、メディアに対する理解を養う

教育学は、読んで字のごとく、教育というものを様々な角度から考察するとともに、より良い教育のあり方を模索する学問です。しかし一口に教育といっても、その概念がはらむテーマは多岐にわたっています。日本の学校教育を例に挙げれば、授業のカリキュラム、生徒と教員の関わり方、いじめ・不登校問題、障害児教育、学校でのジェンダーや差別をなくすには…など、様々なテーマがあります。さらに視野を広げれば、社会と教育の関わりや、人権としての教育、環境教育、生涯学習、教育とメディアなども教育学の扱う領域です。非常に広がりのある学問なのです。

ICUの教育学メジャーは、教育哲学や理論などの基礎を押さえつつ、国際的な視野と多様な価値観に関する認識、教育におけるコミュニケーションやメディアへの理解、そしてこれらを教育現場に応用する力を備えた人間の育成を目指しています。他大学では教育をドメスティックな問題として扱う傾向がありますが、教育学メジャーでは「日本の教育は他国と比べてどうか」というような、グローバルな比較の視点を大切にしています。また、メディアという切り口から教育について学ぶ機会が多いのも強みではないでしょうか。教育現場では近年、授業のオンライン配信やTwitterを

使ったディスカッションなど、メディアを紹介した取り組みが広がっています。メディアが学生や教育に及ぼす影響をテーマにした授業や、映像・ソフトウェア教材を実際に作る授業などでの学びは、学生が教育の未来を考察し、教育を実践する上でプラスになると感じます。

教育は教育現場だけで完結しない

教育学メジャーでは、教育哲学や理論などの基本的な授業に加え、他のメジャーや地域と連携した授業が開講され、教育学の広がりを実感できるような環境があります。例えばマーク・ランガガー先生の授業では、近年登場した「ESD (Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)」という概念を掘り下げています。学生は、環境問題や資源をめぐる争いの解決に向けた教育について学ぶ中で、教育が社会や地球環境に与える影響にまで考えを発展させています。また、三鷹市大沢の小中一貫校「おおさわ学園」と連携して、学生が実際に生徒たちと交流する機会を設けており、現代の教育の実態に触れながら考察を深められるようになっています。

私自身は、過去に国際教育協力の現場で働いていたこともあり、主に教育社会学や国際教育協力に関する授業を担当しています(写真で手に持っているのは、ケニアでの活動の際に入手した《考えるキリン》)。

「国際教育協力論」の授業では、学生が国連や途上国政府やJICAに扮してディスカッションをするロールプレイングを行い、各団体が思い描く教育ビジョンの相違を実感できるようにしています。教えるべきことは、労働者としてのスキルなのか、市民としての意識なのか…立場が違えば、自然と教育協力に対する考え方も変わってきます。授業を履修している学生には、社会を良くする教育とはどうあるべきか、様々な視点から考えられるようになってほしいと思います。

学生も卒業生も、もっと市民社会活動を!

ICU生は、非常に意欲的で吸収力があると思うのですが、もっと多くの学生にNGOなど市民社会活動に参加してほしいと思っています。せっかく教育や国際協力について学んだのであれば、それを生き方として実践してほしいです。日本社会は、年齢や性別によって生きる場所が決まってしまう傾向があるので、NGOなどに参加して同じ社会に生きる多様な人々と触れ合うことは、社会を良くするだけでなく自分の世界を広げることにも繋がるはずです。学生たちには、卒業して会社などの組織に入っても、組織人として働くことは別に、自分の信念に従って社会に参加する機会を持ってほしいと思っています。

西村 幹子 NISHIMURA, Mikiko

1996年、英国サセックス大学修士課程(開発学)修了。その後、Action Aid、国際協力事業団などの一員として、アフリカ諸国をはじめとする国々で支援活動に携わる。2005年、コロンビア大学博士課程(教育学)修了。2011年に国際基督教大学に着任。専門は、教育社会学、国際教育開発論、教育政策・改革の評価など。最近関心のあるテーマは、国連のSDGs(持続可能な開発目標)に掲げられている「インクルーシブで公正な教育」という概念や、日本の学校運営におけるコミュニティ参加の実態など。現在子育て中。卒業生の石田由香理さん(57 ID13)との共著『<できること>の見つけ方 全盲女子大生が手に入れた大切なもの』(岩波ジュニア新書)も話題に。

教育学メジャーのデータ

●開講されているクラス(一部、2015年現在)
教育原理
教育におけるコンピュータの利用
教育の国際的展望
発展途上国における教育
教育行政学研究
人間発達と社会的エコロジーへの多文化的アプローチ国際教育協力論 など

●担当教員(2015年度現在)
ドーン、ウォルター DAWSON, Walter P.
鄭仁星 JUNG, Insung
ランガガー、マーク W. LANGAGER, Mark W.
西村 幹子 NISHIMURA, Mikiko
大川 洋 OKAWA, Hiroshi
佐々木 輝美 SASAKI, Teruyoshi
笹尾 敏明 SASAO, Toshiaki

A People

林容子 (27 ID83)
アートマネージャー

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

「アートを知れば人生は豊かになる」

その信念を胸に、高齢者施設でのアート制作プログラム、
認知症の方向けアート鑑賞プログラムなどを手がける熱き自由人

文・プロフィール写真：北川直子 (本誌)



認知症予防壁画プロジェクト photo:ayu amari (アーツアライブ提供)

2015年秋、東京・表参道の会員制サロン「CTW」で林さんにお会いした。ここは、招待された社会貢献活動家だけが利用できる場所。林さんは自身のアーツアライブの活動を評価されここに招待された。その名誉ある場所で、林さんに、ご自身の半生とアーツアライブの活動について伺った。

2度の留学で出会ったアートの仕事

林さんがICUに入学したのは1979年。留学プログラムを持つ大学がまだ少ない中、すでに海外のいくつかの大学と交換留学プログラムを展開していたICUは魅力的に映ったという。

3年次、米国デューク大学に留学した林さんは、言葉の壁、文化の壁に突き当たる。専攻した米文学の授業についていけなかったのだ。一方、ダブルメジャーで出席していたアートの授業では、自分の解釈が評価される。林さんはそこで「アートは自由だ！言葉の壁も文化の壁も超越するし、異なる意見が認められる、とても居心地の良い世界」だと気づく。そしてこれを境にますますアートに傾倒していった。

留学を終え、米国中の美術館を巡ってから帰国すると、もう4年生の夏だった。卒業後は海運会社に就職するも、アートの仕事をしたいという夢が捨てられず1年10カ月で退社。しかし、当時の上司にはアーツアライブの理事を務めてもらうなど、良い関係が続いている。

退職後は「場所や時間に縛られたくない」とさまざまな仕事を掛け持ちしたが、やはりアートの仕事に就きたいと留学を決意。留学先を探す中で見つけたのが、「アートアドミニストレーション」＝アートをいかに社会に活かすか、という分野だった。これは自分にぴったりだと直感した林さんは、即、この分野を勉強できるコロンビア大学大学院へ。日本にはまだなかったアートアドミニストレーションを学びながら、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) でのインターンなど貴重な経験をした。

帰国後は(有)アートウッズを設立し、フリーで展示会の企画をする一方、「アートは街中にあるべき」との信念を胸に、街角や企業のエントランスホール、大自然の中など、パブリックス

ベースでのアートも展開していった。

アーツアライブ・プロジェクト

1999年、林さんにまた転機が訪れる。「Arts for Health」という英国の慈善団体が主催する国際シンポジウムに出席し、英国の病院や施設を視察したときのことだ。視察先の施設には彫刻があり、絵画があり、さらにアーティストと患者、一般人が共に制作をするアトリエがあり、さながらモダンな美術館のようであった。

当時の日本の病院とはまるで違う様子に衝撃を受け、ぜひ日本でもこうした取り組みをと思った林さんは早速、シンポジウムで知り合った湖山医療福祉グループ代表・湖山泰成氏の経営する高齢者施設でアート制作プログラム「アーツアライブ」を開始した。

「アーツアライブ (Arts Alive)」は、アートを通してすべての人に生き活きしてもらいたい、との願いをこめて付けられた名前だ。ただアーティストが作品を創り施設に飾るのではなく、アーティストが、そこにはどんなアートが適しているのかを考え、参加者と一緒になって作品を創り、皆に生きる力を取り戻してもらうのがこの活動だ。

たとえばある施設では、居室のドアが皆同じ真っ白な障子なので、部屋を間違える人がいるという問題があった。そこで、その場に適したアートとして、各部屋の障子に絵を描くことにした。部屋の住人に楽しかった思い出をヒアリングし、それを美大生が絵にしていける。住人はその様子を眺め、事細かに学生に指示を出していく。結果、住人のビジョンを再現した、住人と美大生の「合作」ができあがったという。

このプロジェクトを皮切りに、林さんは次々にアート創作プロジェクトを実施。開始から16年経った今では学生ではなくプロのアーティストを招き、高齢者施設のほか、障害者施設、保育園など、さまざまな場所でプロジェクトを展開している。

プロジェクトを実施する際に林さんが重視していることがもうひとつある。それは「質」。「人に見せたいような自慢のものを作り、達成感を持って」という。ではアーティストが参加者を指導するのかといえば、そうではない。

たとえば壁画制作プロジェクトでは、参加者には自由に絵を描いてもらう。そしてアーティストが、一つひとつの絵を活かしつつ、全体でひとつのアートとなるようにまとめあげる。小さな絵が集まり大きく素晴らしい作品となるその様子は、さながら絵本「スイミー」のようだ。

MoMAの鑑賞プログラム

「アート×高齢化」に興味が出てきた林さんは2011年、MoMAの認知症の方およびその家族のためのアート鑑賞プログラムを視察。そこではファシリテーターのもと、認知症の方々が絵の前に語り合っていた。それは、長く認知症の方々と接してきて、彼らとのコミュニケーションの難しさを知っていた林さんにとって衝撃的な光景だったという。

感動した林さんはすぐにこれを日本に取り入れようと考えMoMAと交渉を開始。半年におよぶ交渉の末、日本に紹介する権利を勝ち取った。早速日本でもアートコミュニケーションプログラム(ACP)を始めると同時に、プログラムのファシリテーターである「ACPアートエドゥケーター」の養成も始めた。プログラムの場は国立西洋美術館、パナソニック汐留ミュージアム、

川崎市民ミュージアム、東京オペラシティアートギャラリーなど、どんどん広がってきている。

信念があるから頑張れる

日本でまだ誰もやっていないことを次々にスタートさせていく林さん。壁にぶつかるとはなかったのかとの問いにこう答えてくれた。「壁ばかりよ。でも『アートがあったほうが人生は豊かになる』という信念があるから。それに認知症の人に言われたの。『認知症と診断されてから何も楽しみがなかった。何のために薬を飲み、何のためにリハビリをするのかわからない。生きていて何も楽しくない。でも今日(のACP)は楽しかった。こういうことができるんだしたらそれが生きる張り合いになる』と。それを聞いて、この人が喜んでくれるならこの人のためにやろうと思ったの」

信念があるから頑張れる。喜んでくれる人がいるから続けられる。とてもシンプルだが実践するのは難しい。それをやってのける林さん。10年後はどんな新しい活動をしているのか、とても楽しみだ。

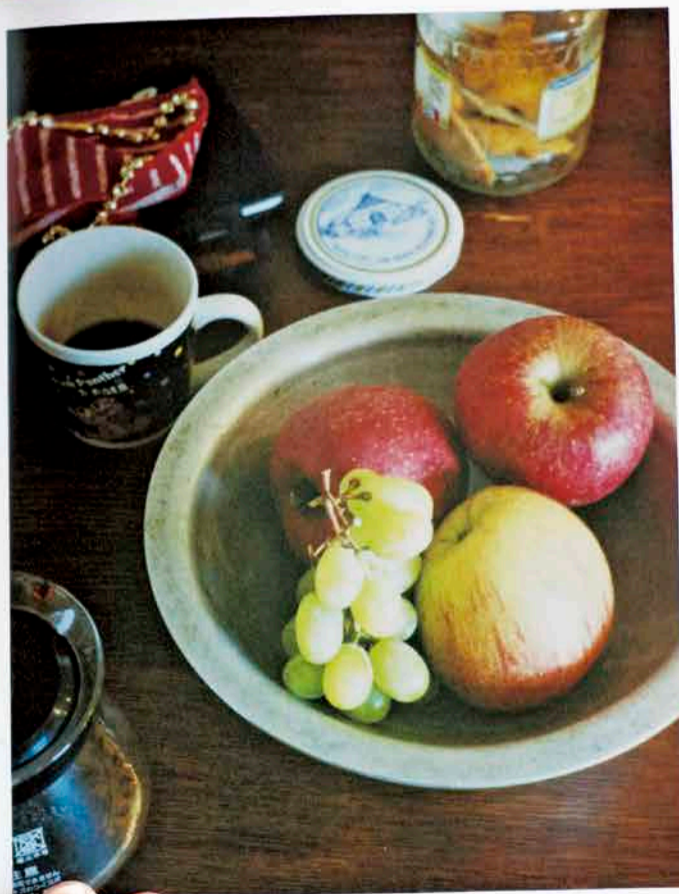


はやし ようこ
HAYASHI, Yoko
1983年人文科学科卒。美術史と米文学のダブルメジャー。同年海運会社入社。1990年コロンビア大学大学院アーツアドミニストレーション修士課程修了。同年(有)アートウッズ設立。1999年アーツアライブ活動開始、2009年一般社団法人化。
www.artsalivejp.org

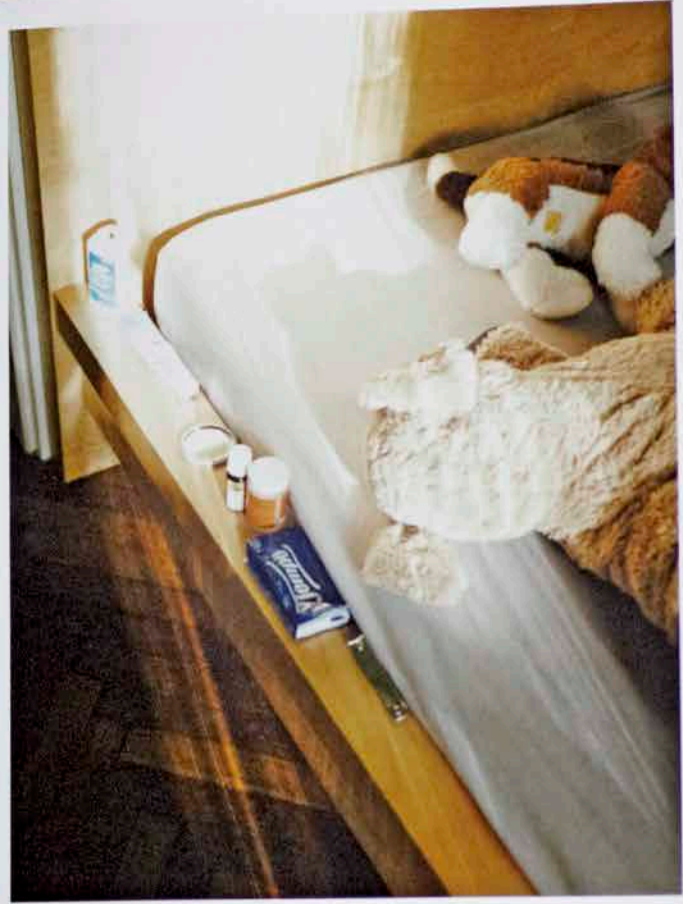
Brooklyn, NY, United States 2013



Mitaka, Tokyo, Japan 2010



Linke Bahngasse, Vienna, Austria 2012



Minamisoma, Fukushima, Japan 2013



ICUや同窓生の関わるニュースあれこれ

今号の見開きアート: 「日常」に込めた想い

写真: 一之瀬ちひろ(本誌) 構成: 佐野久美子(本誌) 文: 野仲裕子(本誌)

緑が見える大きな窓、果物が置かれたテーブル、ぬいぐるみが横たわるベッド、そして窓のそばの勉強机。つい今しがたまで誰かがそこにいた息づかいが聞こえてきそうなこれらの写真は、まったく違う場所で、異なる時期に撮影されたものだ。しかしこれらの写真からは古さや場所の違和感や風景が、今なお繰り返してどこかで営まれている日常の一部だからだろうか。

前ページに掲載されている写真は全て、2015年に刊行された写真集『STILL LIFE』に収められている。写真家・一之瀬ちひろさん(42 ID98)は、人文科学科を卒業し、フォトグラファーとして書籍や雑誌などで活躍する傍ら、この2年間は大学院に在学し、音楽史を専攻している。今回の企画にあたって、より書籍ということ意識できるような写真にすため、改めて写真集そのものを撮影してもらった。

大学生の頃から、海外などで知り合った人に「家を見せてもらえませんか?」と尋ね、その家の日常を11年間かけて少しずつカメラに収めてきた。すなわち、これは彼女と人とのつながりを記録した写真集とも言える。2011年、東日本大震災。彼女はカメラを携え東北に向かうが、人とのコミュニケーションを図るのにいきなりカメラを持ち出すのは少し暴力的かもしれないとその時は感じ、シャッターを切るのを躊躇したという。2回、3回と訪れながら、地元の人とも知り合いになり、仮設住宅や自宅を撮影させてもらった。また偶然連絡をとった南相馬FMには、ICUの卒業生がいて、それから友人関係が続いているという。「これらを1冊の本にまとめた」。彼女は、撮りためてきた写真に、小さく撮影場所、撮影した年だけを添え、1冊の写真集を作りあげた。時期や場所をランダムに配置したのは、「こちらから年代別や都市

別に並べて提示するよりも、見る人それぞれの受け取りかたで見て欲しい」という思いからだった。

写真集刊行後、ニューヨークやパリのフェアに参加し、現地の人々に直接写真集を手渡してきた。また日本でもトークイベントや書店でのフェアが行われ、これから都内でも写真展などが開催される予定だ。

「静物画」と名付けられたこの写真集は、日常は静かに、でも確かにそこにあり続ける、揺るぎない力強さを感じさせてくれる。

一之瀬ちひろ
ICHINOSE, Chihiro (42 ID98)

1975年、東京生まれ。写真家。国際基督教大学大学院アーツサイエンス研究科博士前期課程に在学中。作品を発表する傍ら、書籍、雑誌、広告の撮影に携わる。2011年よりリトルブックレーベルPRELIBRIとしても活動。2014年JAPAN PHOTO AWARD受賞。2012年、個展「KITSILANO」(ニコンサロン銀座)を開催。2015年「STEP OUT! New Japanese Photographer」に参加。写真集に2006年「ON THE HORIZON」、2012年「KITSILANO」、2015年「STILL LIFE」。



写真集「STILL LIFE」

写真展情報

2016年3月2日～3月6日
3月5日トークイベント
森岡書店 銀座店
住所: 東京都中央区銀座1-28-15
鈴木ビル1階
営業時間: 13:00～20:00、月曜休
TEL: 03-3535-5020

2016年4月5日～4月18日
新宿ニコンサロン
住所: 東京都新宿区西新宿1丁目6-1
新宿エルタワー 28階
営業時間: 10:30～18:30、会期中無休
TEL: 03-3344-0565

『ここが!(ビックリ)だよ ICU』って本が出た!?

文: 山岡清二(本誌)

こんな奇妙な書名の本が市販され、意外によく売れているという。表紙には「日本一おもしろい大学の謎」「ICUの基礎知識」などのキャッチコピーが踊っている。

第1章の冒頭にはこんな出版の趣旨が出てくる。「2015年春、ニュースや各メディアで取り上げられ、一躍「時の大学」となったICU。正式名称を「国際基督教大学」という学校のこれまでの評判は、『偏差値は高い』『スゴいらしい』といったものくらいで、実態がどのようになっているかは「知る人ぞ知る」ものだった。そこで今回、謎のベールに包まれたICUという大学のことを、多くの方々に知ってもらおうと、こ

ういった本を企画した次第である」

米国の片田舎で「教会を通じてICUに献金した」と言ってくれる高齢のご婦人に巡り合う、といった経験を何度もした私は、それとは対照的な日本国内におけるわが母校の知名度の低さを常々嘆いてきた。だがこの本で「2015年春…「時の大学」となった」とされている「佳子さまブーム」のおかげで、昨今やっと世間一般の関心がICUに向いてきたということなのか…。

この本を見ると、まともな大学受験希望者にもリベラルアーツの高等教育を目指して、興味を持ってもらえそうな情報が満載だ。それにしてもこれを書いたのは卒業生

だろうか。ICU当局への取材なしに、ICUの中身をこれだけ客観的、好意的に解き明かした力量に正直私は敬服している。

最後に、私の勧めで読んでくれた同期(6期)の藤井紀代子さんに、読後感を話してもらった。「漫画チックに面白く書いてました。また、ICUの特色が一見して分かり、改めて素晴らしい大学だと思いました。私の在学中にもっといろいろな機会を有効に活用して勉強しておけばよかったとつくづく思いました。父親の赴任でワシントンにいる高1の孫娘にこの本を送って、ICUに挑戦してくれるように願っています」



ファミマ・ドット・コム (TEL:03-5958-3817) / 価格: 本体1,000円+税

《ICU 同窓会の皆様へ》 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引!

VISA ゴールドカード



通常10,000円+税
2,500円+税

2年目以降も同額です!

ロードサービスVISA ゴールドカード



通常11,000円+税
3,000円+税

- ★ ご家族も本会員申込み OK!
- ★ 同窓会にもメリット!
- ★ ご入会キャンペーン実施中!

カード利用額の一部が同窓会に還元!
VJA ギフトカード1,000円分をプレゼント!
(平成28年5月末まで)

申込書ご請求の方にも、もちろんボールペン2色セットをプレゼント!

※ 本会員年会費は左記のとおり。家族会員年会費は1,000円+税です。
※ ロードサービスVISAゴールドカードは、別途ETC年会費500円+税(初年度無料)がかかります。なお、1年間に1回以上ETC利用のご請求があれば次年度は無料です。
※ ご入会にあたっては、当社所定の審査がございます。

申込書請求先(メール、FAXの方は、ICU同窓会員であることに加え ①名前 ②住所 ③電話番号をご送付願います。)

お電話受付時間: 平日 9:00～17:00(土・日・祝日・12/30～1/3 休)
営業推進部: 清水・菅原・土屋

◆メールの方 **Moushikomi@smtcard.jp**
◆FAXの方 **FAX 03-6737-0834**
◆お電話の方 **☎ 0120-834-928**(やさしくつーわ)

(取得した個人情報 は VISA カード入会申込書を送付することに限定いたします。)





村上陽一郎先生の講演会「大学とリベラルアーツ」を開催

文：鷲見徹也(13) 写真：望月厚志(本誌)

昨年11月14日、国際基督教大学・東京大学名誉教授で、日本アスペン研究所副理事長の村上陽一郎先生による講演会「大学とリベラルアーツ」が、東京・内幸町の日本プレスセンタービルで開催された。この講演会はICU同窓会が主催する「リベラルアーツ講座」の第1回として開かれたもので、128人が参加し熱心に耳を傾けた。

村上先生は1936年、東京生まれ。専門は科学史、科学哲学、科学技術社会論。講演で先生は、12世紀におけるボローニャ、パリなどでの大学の誕生から始まり、脱宗教化を特徴とする18世紀の啓蒙主義と知識の専門分化、さらには、19世紀のベルリン大学に象徴される近代的大学の誕生に言及。そのうえで、1930年代に米国のシカゴで始まった古典の名著を読み進めるグレート・ブックス方式によるリベラルアーツ教育、および、日本での発展や問題などを、知の世界の文脈の中で位置付けて解説された。

村上先生によると、教養教育の源は、12世紀の西欧の大学における「三科と四科」、つまり7つのartes liberalesにあるとのこと。「三科」は、論理・文法・修辞学、「四科」は、天文・幾何・算術・音楽の原型で、いずれも、「学問」と言い変えることができ、「哲学」を学ぶための基礎として、人間性を豊かにするために学ぶべきものとされていた。

日本では「教養教育」という言葉に置き換えられてきたリベラルアーツ教育。先生によると、日本は戦後、米国の教育制度を取り入れたものの、学部・学科制度を温存したために、教養教育は徹底されなかった。そして、大部分の国立大学の「教養部」は、

予算も組織的な方法論もなく、教員は自分の専門の入り口を講義するというのが実態で、1991年の大学設置基準の改正を受けた改組によって、東京医科歯科大学を除いて消滅した。

一方、学部であれば定員がつくことから、ICUや東海大学のほか、東京大学、埼玉大学など国立大学でも教養学部が誕生。その後、教養を中心とした大学として秋田県立国際教養大学などが新設された。しかし、リベラルアーツの大学において学生は、広く、さまざまな可能性に触れることができるものの、何を専門に学んだのかという意識が希薄なため、社会的に認知されがたい現状にあることが指摘された。

一方、現代のリベラルアーツ教育の成果として村上先生は「何にでも適応できる潜在能力の豊かさ」を強調。今後は、既に米

国で一部、行われているように、大学院レベルでもリベラルアーツ教育を行い、高度な教養教育を進めていく必要性を訴えた。そして、現代の教養教育は成熟した市民としての素養を身に着けることが重要で、新たなリベラルアーツ教育として、科学・技術リテラシーや社会リテラシー、それに、コミュニケーション能力を持つことを、その方向性として提言した。

さらに先生は、現代の知識人の資質として、多面的にものを考え、自分の立場を相対化でき、どのような相手にも自分の考えを伝えられること、相手の考えを理解できること、さらには、カウンターバランスがとれ、「規矩」とも言うべき自分の評価基準をきちんと持つことを挙げ、「大学という場所は、そういう人間をつくる場所でありたい」と語り、講演を結んだ。

学生主催の「メジャープロジェクト」に380人が参加

文・写真：岡田庄生(本誌)、築田淳(同窓会学生評議員)

高校生がICUを志望する理由のひとつに、自身の専攻(メジャー)を3年次まで決めなくて良い、ということがある。幅広い世界を見られるメリットがある半面、どのメジャーを選択すれば良いのか迷う学生も多いそうだ。そんな学生たちのために、イベント「メジャープロジェクト」を企画したのが現3年生で同窓会学生評議員でもある築田淳さん(ID17)だ。

築田さんは、学生の履修計画をサポートするピア・アドバイジングの活動をしている学生団体、ICU Brothers and Sisters(IBS)のメンバーだ。IBSでは履修相談に始まり、メジャーとキャリアの関係性について同窓生にインタビューをしたり、一般教育科目(GE)を学ぶ意義について学生、教員、卒業生と一緒に考えるプロジェクトを行ったりと多岐にわたる活動をしている。築田さんはIBSとして、昨年9月15日から週に1度、4回にわたって「メジャープロジェクト」を開催した。

ICUでは数年前、メジャー制に移行したことにより、学部やメジャー、理系文系の枠にとらわれない、より自由度の高い履修

が可能になった。その半面、自由ゆえに学生がそれぞれバラバラに履修を進めていくためか、「誰が同じメジャーであるか」「メジャーのことで上級生に聞きたいことがある場合、誰に聞けばよいか」という疑問がある。これは築田さん自身も感じていたという。そして「メジャー内で縦横の繋がりがあつたら」という築田さんの思いが、このイベントの企画立案につながった。

イベント当日は、教員や4年生、大学院生などを招き、メジャーごとにひとつの教室を使用して約1時間、ざくばらんにメジャーについての話や履修に関するアドバイスをしてもらった。参加学生からも気軽に質問や意見が出るような相互参加型の会となった。全4回、31のメジャーへの参加者はのべ380人にのぼり、IBSのプロジェクトの中でもっとも多くを巻き込んだプロジェクトとなった。

参加者アンケートにも、「今まで誰にも聞くことができなかった疑問を解決することができた」「普段話をするのを躊躇する先輩や先生と話ができ、距離が縮まった」「ぜひこのような会を定期的で開催し

てほしい」といった前向きな感想が多数寄せられ、参加者の90%以上が「このプロジェクトに満足している」という回答をした。

「IBSとして、やってよかったと思えるプロジェクトを開催することができました。私個人としても、自分がふと感じた思いが

大学を大きく巻き込んだプロジェクトに発展し、大好きなICUのために活動できてうれしく思います」と築田さんは語った。



先生や先輩を囲んで

ICU Festival 2015

2015年同窓会企画のご報告

2015年のICU祭同窓会企画は、アラムナイハウスでのイベントとカフェ、本館前でのカイロプラクティック・チャリティ整体にと、たくさんの同窓生の皆さんにお越しいただいた。同窓会のイベントを機会に、久しぶりにキャンパスに足を運んで下さった方が何人もいらっしゃり、うれしい再会もあった。目標額まであと一息の桜募金のブースにも多くの方々が立ち寄り、募金にご協力くださった。感謝を込めてICU祭報告をお送りする。

文：木越純(27 ID83) 同窓会会長、栗山のぞみ(本誌) 写真：細谷修三(本誌)、同窓会事務局



ラオスの山の風をアラムナイハウスへ… DAY2015受賞 安井清子さん講演「私のICU～ラオスに図書館をつくる」

モン族の子どもたちへの読み聞かせの様子を再現する安井さん

「ラオス山の子ども文庫基金」代表安井清子さん(28 ID84)は、ラオスでの図書館運営や自立支援活動により2015年のDAYを受賞。ICU祭2日目の10月25日、アラムナイハウスに50人余りが集まり、ICU時代から手探りで難民キャンプでの図書館設立、そしてモン族の民話採集に至る、まるで冒険譚のようなご経験に耳を傾けた。

在学中はワンダーフォーゲル部に所属し、山歩きや北欧へのバックパック旅行を楽しむなど学生時代を謳歌していた安井さん。就職活動では児童書の大手出版社への推薦

を得て、難関の就職試験を突破したころ、人形劇団「おはなしきやらばん」の公演を見る機会があり、子どもたちの素直な反応に感激。「私のやりたいことはこれだ!」と方向転換、入団を決めた。当時の就職相談室の名物職員、川上ひめ子さんを啞然とさせたが、最終的に「あなたには合っているかもしれないわね」と言われたとか。

入団翌年にはタイの難民キャンプでの公演に参加し、苦労の中でも目を輝かせて人形劇に見入る子どもたちに惹きつけられた。その後、おはなしきやらばんと協力関係にあったシャンティ国際ボランティア会から派遣され、モン族の難民キャンプで図書館

をつくる活動を任された。「モンには文字もなく本もないと聞いて、図書館をつくる? どうやって?」と思いましたが、とにかく絵本をたくさん持って行きました」。

安井さんが最初に覚えたモン語は「ダッチ(なあに?)」。ロシア民話「おおきなかぶ」の絵本を使い、登場人物や動物たちを指さして「ダッチ?」「ダッチ?」と繰り返して、子どもたちに単語を覚えてもらい、身振り手振りでお話を紹介したところ大受けしたそうだ。そんなある日、子どもたちから「ダネンって知っている?」と聞かれ、それが「民話」を指すことを知る。「子どもたちに連れられて、夜、お話名人が語る民話を聞きに行ったのです。昼間は騒がしい子どもたちがじーっと聞き入っていて、お話が生きていると感じました」。

書き文字のないモン族に、豊かな民話の世界があることは安井さんにとって大きな発見で、この魅力的なお話を図書館に取り入れようとひらめいた。テープレコーダーを回して民話を集め、モン族の得意とする刺しゅうで絵を描いてもらい、およそ100冊もの美しい布の絵本が完成した。

この難民キャンプには5年半滞在。その後、ラオスのモン族の村で民話を採集する

プロジェクトを立ち上げ、縁がありその村でも図書館づくりをすることに。じっくり2年間村に滞在することで、民話の背景を理解することができたという。そして、モン族の民話は解説もつけて日本語で翻訳出版された(『ラオスの山からやってきたモンの民話』ディンディガル・ベル発行)。

後半は、現在の安井さんの活動拠点の一つであるラオス・ゲオバトゥ村の風景を映像でご紹介いただいた。「空の民」とも呼ばれるモン族の人々が“空に広がる”ような急勾配の畑で農作業を行う姿、水牛と遊んだり水くみや薪を集めたりする子どもたちの姿は、何もないように見えても「自然や労働に根ざした生活が豊かな想像力を生み、それが民話に結実し、生きる知恵に通じる」という安井さんの講演内容を裏打ちするかのようだった。

最初に難民キャンプで苦勞していた頃、何人ものICUワンゲル部の友人たちが訪ねてきてくれたことが、活動を続ける力にもなったと語る安井さん。ICUには「未知の世界に入っていくことが特別視されない空気があり、そうした世界に飛び込んだ経験を持つ仲間がいた」ことが自身の背中を押してくれた、とも語ってくれた。

桜再生プロジェクト

文：千田哲史(38 ID94)

老朽化のため伐採されたマクリーン通りの桜の木から、新たな同窓会グッズ(コースター&マグネットバー)が誕生。おかげ様で来場者からはご好評をいただき、売り上げも上々だった。歩調を合わせるように、百瀬晃平さん(59 ID15)がICU図書館内の「内村鑑三記念文庫」の看板を同じ桜材から製作、お披露目された(ドリコン2014銀賞)。

「桜並木再生プロジェクト」は、今後も桜廃材の有効活用という形で引き継がれていく予定。残り期間わずかとなった「ICU桜募金」にも、皆様のご協力をお願いしたい。



テント企画のチャリティ整体、アラムナイハウス内での桜募金、同窓会グッズ販売もにぎわった



Re-connecting with ICU

文：三保良介(52 ID08)

10月24日のICU祭の初日、アラムナイハウスで卒業生が交流を深めるイベントが開催された。タイトルは“Re-connecting with ICU”で、同窓会のさまざまな支部の活動を知ってもらい、交流を深めてもらうというもの。

The Weekly GIANTS支部、三鷹支部、山楽会支部、美術部OB会支部、ICU教育セミナー支部、ICUICUの会支部、丸の内Style支部と、多くの支部の方がつどい、それぞれの思いを活動内容とともに語って

くれた。司会を担当しながら、これだけ面白い人たちが同窓の先輩にいてくれることをうれしく思った。

散会後もワインを片手にソファで話し込む輪がちらほら。現役生もそこに入って先輩方の話を熱心に聴いたり、旧交を温めるのみならず、世代を超えて親睦を深める素晴らしい機会であった。当日の食事は、ICU卒業生が表参道で営むジュメイラが提供した。



Dream Competition 2015

「ICU同窓会×学生×フェアトレード」の取り組みが始動! — 金賞はELABEL

ICU生の大きな夢の実現を同窓会が支援する「ドリコン2015」は11年目を迎え、初めて合宿形式の「ドリコン・キャンプ」として開催された。学生と同窓生と一緒に磨いた「夢の原石」は、早くも大学コミュニティを巻き込むカタチとなって輝き始めている。

文：伊藤航 (49 ID05)同窓会学生部担当副会長 写真：同窓会学生部



金賞を受賞したELABELの商品 ブックカバーとトートバッグ

昨年9月12日から13日、軽井沢でICU同窓会主催「ドリコン・キャンプ2015」が行われ、同窓会オリジナルグッズに「フェアトレード認証コットン製品」を導入する企画で応募した丹波小桃さんと中西彩花さん(ともにID17)が金賞に輝いた。

「学生の夢をカタチにする」ドリコン(ドリームコンペティション)は、同窓会が賞金や各種支援を提供するイベント。11回目となる今年は、夢を実現するための「成長の支援」を目指し、初の合宿形式で行われた。6月の1次審査に応募した13組から選ばれた5つの団体・個人が、1泊2日の合宿を通じて各々の「夢の原石」を磨き上げる。同窓会役員で構成する審査委員団に今年は大学から布柴達男学生部長も加わった。「企画への情熱」「ICUや同窓会への貢献」「実現性」などが審査ポイントになった。

金賞を受賞した丹波さんと中西さんは、ICU生がフェアトレードを「なんとなく知

っている」状態から「主体的に実践する」状態にするため、同窓会事業部と連携し、同窓会グッズに「フェアトレード認証コットン製品」の導入を目指した。受賞後、二人は学生団体ELABELを設立。非常に厳しい審査基準をクリアしてフェアトレード認証を受けた製品に「いい(E)ラベル」をつけて、「選ぶ“choose”」という行動にまで結び付けていきたいという団体の目標を名前に込めたという。仲間も10人ほどに増えて活動の輪が広がっている。昨年12月16日には、ICU同窓会×フェアトレードの第一弾グッズとして、トートバッグとブックカバーをリリース。学内三省堂で販売している。

「本当に何をやりたいのか、キャンプを通じて見つめ直しました。企画の実現が『仲間との共通の夢』になってうれしいです。卒業後も見据えて『フェアトレード』をICUに根付かせていきます」と丹波さんは抱負を述べた。



金賞を受賞した丹波小桃さん(右)と中西彩花さん(左)。木越純同窓会会長(中央)と



◆ドリコン2015入賞者一覧 ※ドリコン受賞時の企画・申込者名

金賞：30万円

ICUオリジナルグッズにおけるフェアトレード認証製品の導入 / 丹波小桃、中西彩花 (ID17)

- ICU生がフェアトレードを知識として「知っている」だけの状態から、主体的に「している」状態にするため、同窓会オリジナルグッズにフェアトレード認証コットン製品を導入する

銀賞：上限20万円(プロトタイプに10万円、実現のメドが立ったら追加で上限10万円)

三鷹の森ごはん～ICU本～ / 小山耕平、池田千草 (ID18)

- ICU生と地元地域を繋げて地元から愛される大学にするため、キャンパスから一歩外に出るきっかけを与えられる“三鷹の飲食店をICU生目線で取材したグルメ本”を作成する

Friend's Bookshelf / 高野泰樹、種本宗一郎 (ID18)

- まるで友達の本棚を覗くかのように、ICUの学生・教職員・同窓生が「ひと」を通じて新しい本と出合えるSNSサイトを構築する

JICUF賞：\$2,000

ICU Identity Project / ICU Brothers and Sisters (IBS)

- ICUの歴史をひも解きながら、学生、同窓生、教職員とともに、建学当初から共通しているICUの原点を見つめ直すイベントを開催する
(2月13日、ICU Spirit Projectに名称を変え、ICU familyに共通する「ICU生らしさ」、一人ひとりが持つ「ICU Spirit」とは何かを現役生・教員・同窓生と一緒に議論するイベントを開催)

木越独歩賞：5万円(木越純同窓会長による特別賞)

↑Network(縦横ネットワーク) / 鈴木暹 (ID16)

- ドリコンの効果を最大化するため、進化を続けるドリコンの再定義を行い、歴代受賞者とこれからの受賞者の縦と横のネットワークを深めていく仕組み作りを行う

同窓会運営チームでリーダーを務めた森川園子さん(44 ID00)は「合宿を通じて各企画が大幅にブラッシュアップされました。泊まりがけのキャンプは内容が濃くて大変だったと思いますが、学生たちが見違

えるほど成長しました。これが一番の収穫です」と話した。

同窓会では、惜しくも受賞を逃した学生に対しても、資金面だけでなく人脈や経験の提供による支援を行っていく。

翻訳・通訳

皆さまに支えられて 28年…

美しい日本語、
コクのある翻訳、キレのある通訳



母校ICUのいくつかの部門からも
翻訳・通訳のご依頼をいただいております。
御礼申し上げます。

同窓生
10%割引



日本外国特派員協会会員 / 東京商業会議所会員

翻訳・通訳・制作(デザイン・印刷)

(株)エクシム・インターナショナル
EXIM INTERNATIONAL, INC.

03-3431-2118

URL: <http://www.exim-int.com/>

東京事務所 〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 セネラルビル3F
TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120
E-mail: tokyo@exim-int.com

横浜事務所 〒232-0063 横浜南区中里2-14-5
TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165
E-mail: yokohama@exim-int.com

President 永島 克彦(14期) Advisor 比奈地 康晴(14期)

22年間運営してまいりました品川院と16年間運営してまいりました三鷹院を移転統合し、三鷹駅南口徒歩1分の医療系ビル内に、国内最大級の広さのカイロプラクティック院として2016年1月にリニューアルオープンしました。

院長 佃隆 ICU卒業生44期(ID00)

FAMILY CHIROPRACTIC

腰痛・頭痛・姿勢を改善させたい方へ

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

〒181-0013 三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室

TEL 0800-888-4270

「アラムナイニュースを見て」とお電話ください(8:30~20:00)

web <http://mitaka-chiro.com>

mail info@mitaka-chiro.com



From the University

大学のページ

ICU OpenCourseWare(OCW)をご存知でしょうか。本学では教養学部の授業をWebサイトで無償で公開しており、本学の多彩な科目群を象徴する一般教育科目のほか、メジャー（専修分野）科目や語学科目など、現在は約90科目を公開しています。今号では、本学での学びを思い出す一助になるとともに、新たな学びの場として活用いただけるICU OCWの現状を、OCWの責任者である学修・教育センター長のメッセージとともにご紹介いたします。

*学修・教育センター:2015年4月に学生への学修支援、教員への教育支援を一元的に行う部署として設立

Do you know what ICU OpenCourseWare (OCW) is? ICU makes its courses available online free of charge on its Website. We presently offer approximately 90 courses, epitomizing the diversity in the curriculum the university offers in General Education, various majors and languages. In this issue, the Director of the Center for Teaching and Learning, Professor Kenya Kubo introduces the ICU OCW to alumni. As the person in charge, he explains how it is reviving memories for alumni of their days at ICU and providing them with a new means for further learning.

*Center for Teaching and Learning: established in April 2015 to support students in their learning and assist faculty in their teaching

ICU OCWで今の授業を体験してください You Can Experience the Learning at ICU with the ICU OCW.

2001年に米国のマサチューセッツ工科大学 (MIT) で授業を無償で公開する取り組みとしてスタートしたOpenCourseWare (OCW) は、現在世界の大学に広がっています。本学でも、授業を公開して「知識」に誰もが自由にアクセスできる場を提供することは、リベラルアーツ教育への強いコミットメントを反映するものであるとともに、今日および将来の世界が直面する複雑で多岐にわたる課題に世界の人々とともに取り組むことであると考え、公開に向けて準備を始めました。そして、MITにおけるOCWの提唱者の一人で本学の同窓生でもある宮川繁教授 (CLA19, ID75) を献学60周年記念教授としてお迎えし、OCWの顧問にも着任いただき、アドバイスを得ながら、2013年4月にICU OCWが公開されました。

本学のOCWの特徴は、リベラルアーツ・カレッジである本学の多様性が、公開されている科目の種類に表れていること、そして公開されている授業の形式が講義だけではなく、本学の特徴の一つであるディスカッションやグループワークなど様々な「対話型」の授業であることです。

卒業生の方には、現在のICUの授業を体



験いただくとともに、お子様などに本学を紹介する際のツールとして、またアドバイザーの先生の授業など懐かしみながらご覧いただくなど、多くの方々に様々な形で利用させていただきと思っています。



学修・教育センター長
久保謙哉 教授
Director, Center for
Teaching and Learning,
Professor Kenya Kubo

In 2001, the Massachusetts Institute of Technology initiated OpenCourseWare (OCW) by offering courses free of charge. Universities around the world followed suit. ICU started preparations, in the belief that providing knowledge to all by offering free access reflects our strong commitment to liberal arts education. It also enables the university to work with the international community to find solutions for myriad complicated problems our planet faces. MIT Professor of Linguistics, Shigeru Miyagawa (CLA19, ID75), one of the first MIT faculty members to advocate OCW, and a 60th Anniversary Professor at ICU, gave us advice on how to implement OCW. With his help, ICU OCW started out in April 2013.

Our OCW reflects the broad spectrum of courses we offer as a liberal arts college, as well as the ICU teaching style that encompasses lectures as well as active learning classes with emphasis on dialogue through discussion and group work.

We hope our alumni will use the OCW in various ways, as a tool to learn what students are currently studying, introduce their alma mater to their children, and listen to lectures by professors you had studied with.

1. 特長あるICUの授業の体験

ICU OCWの目的の一つは、対話を重視する授業形態、日英バイリンガル教育を、Webを通して誰もが体験できる環境を整えることです。このため、公開初期には本学の特長ある科目の一つ「一般教育科目」を中心に授業の収録に取り組み、2014年9月までに一般教育科目の開講数の約30%にあたる27科目を公開し、その後はメジャー科目（主に概論）を中心に収録しています。2016年1月現在、約90科目を公開し、中には学期中のほぼ全ての授業を公開しているものもあります。この他、高校生向けのコンテンツとして、オープンキャンパスでのモデル授業など81本も公開しています。

また、OCWを利用する人にとっての利便性を高めるため、動画を編集して短いダイジェスト版を作成して公開している授業

もあります。特にプレゼンテーションやディスカッションなど学生発表が多い授業は、学生発表の一部を教員による説明などに置き換えて、授業の雰囲気を残しつつ短時間で授業を体験できるようにしています。

本学在学生の中からは、「受験前にICU OCWを通してICUの授業を知り、受験する動機となった」との声があるほか同窓生の方からは、「ICUでの学生生活が蘇り、再び学修したくなった」という感想も伝わってきています。

2. 多様なニーズにあわせた教育・学修支援

ICU OCWの目的のもう一つは、本学の教員および学生の教育・学修支援に貢献することです。教員は、自分の授業ビデオを確認することで、授業の改善に取り組み、さらに他の教員の授業からアイデアを得るなど活用が広がっています。一方、学生

1. Access to typical ICU styles in learning

ICU OCW makes bilingual education in English and Japanese that emphasizes dialogue available to all through the Web. We started with the General Education courses that form the core of our liberal arts education. By September 2014, we were offering about 30% or 27 GE courses online, after which we moved on to offering those in each major, especially the introductory courses. As of January 2016, we have about 90 courses online: some offer the complete set of lectures in a given term. We also have 81 lectures for high school students, such as model classes at Open Campus events.

To enhance user-friendliness, some of the uploaded videos have been edited into shorter versions, student presentations and discussions substituted with captions describing the content exchange or faculty giving a digest. Users can experience the exchange in the classroom in a shorter time than attending the actual class.

Students have told us that browsing the ICU OCW gave them a good idea of what the classes would be like, which motivated them to apply to ICU. Alumni have said that the OCW helped revive memories of their days at ICU and motivated them to study further.

2. Learning and teaching support to meet various needs

The other objective of the ICU OCW is to contribute to learning and teaching support for our faculty and students. Faculty can review videos of their classes

にとっては、履修科目の決定や、2年次終わりに控えたメジャー選択において、どのような授業があり、何を学ぶことができるのか、その分野や科目の概要をあらかじめ知るという点において、ICU OCWは貴重な情報源となっています。在学生には、「興味ある分野や教授の授業をあらかじめ確認できる点が良い」という声があります。また、授業の動画を収録後に短時間で学内公開することによって、学生たちが復習に活用しています。これは、本学のように日英バイリンガル環境で多様な国籍や言語背景をもつ学生がともに学ぶ環境においては、非常に重要な復習の手段であり、さらに最

近では障がいのある学生の学修支援にも有効活用されています。

3. 今後の展開

今後、2016年度にかけて、学期中の全ての授業を公開する科目数をさらに増やすほか、メジャー科目(主に基礎科目)の収録を中心に、公開科目数を120科目にまで広げる予定です。また、利用者にとってよりわかりやすく使いやすいサイトを目指し、定期的なユーザー調査を実施して、コンテンツやナビゲーションなど継続的な改善を行ってまいります。

to improve their teaching and glean ideas by watching their colleagues teach. Students use it as a major source of information when they decide what courses to take, and when they choose a major at the end of their second year. They can have a good look at what sort of courses make up each major with an outline of what they will be studying. Students have told us that OCW has been a good source to confirm the content of courses in subjects they are interested in. They also use OCW to revise, as the videos are uploaded shortly after the lecture is actually delivered. This is an effective tool to revise the content of classes for our diverse student body, especially for those with special needs.

3. Future plans

In AY2016, we will increase the number of online courses offering all lectures. Courses in each major, especially foundation courses, will be expanded to 120. We will build a user-friendly site by conducting regular user reviews to improve the contents and ease of navigation.

How to use ICU OCW

1. ICU OCWにアクセスする。 <http://ocw.icu.ac.jp>

2. 見たい動画、次の方法で探す

- ① コース(授業)から探す
- ② 教授名から探す
- ③ 分野(メジャー)から探す
- ④ キーワードで検索する
- ⑤ 高校生向けの動画から探す

3. 動画を見る

4. 見た動画に関連した授業や、同じ教員が担当する他の授業を見る。

1. Go to ICU OCW <http://ocw.icu.ac.jp>

2. Search for videos by:

- ① Course (lecture)
- ② Name of professor
- ③ Field (major)
- ④ Keywords
- ⑤ Videos for high school students

3. Watch videos

4. Watch lectures related to the videos you watched or other lectures by the same professor



ICU OCWのトップページ Top Page of ICU OCW



各授業動画ページ Each Class Movie Page

カテゴリー別公開科目数および公開科目一覧 (2014、2015年度)

カテゴリー	内容	公開数
授業	一般教育科目 General Education	44
	メジャー科目 Major Courses	35
	リベラルアーツ英語プログラム English for Liberal Arts Program	4
	日本語教育プログラム Japanese Language Programs	1
	世界の言語 World Languages	2
	大学院授業 Graduate School Courses	2
	特別講演 Special Lectures	31
講演等	オープンキャンパスモデル授業 Open Campus Model Courses	50
	合計	169

Course Title	No.	Instructor
AY 2015		
「災後」の人間・社会・文化 Human, Society and Culture in Post-disaster Era	GES094	加藤 恵津子 KATO, Etsuko / 西尾 隆 NISHIO, Takashi / 山口 富子 YAMAGUCHI, Tomiko
S2: リベラルアーツの歴史 S2: History of Liberal Arts	GES034	スティール, M. ウィリアム STEELE, M. William
地球環境と持続可能な開発 Global Environment and Sustainable Development	IRL311	毛利 勝彦 MORI, Katsuhiko
最先端の物理学 Hot Topics in Physics	PHY106	ヒッツェル エクハルト HITZER, Eckhard / 岡野 健 OKANO, Ken / 岡村 秀樹 OKAMURA, Hideki / 平島 大 HIRASHIMA, Dai
カルチュラル・スタディーズ入門 Introduction to Cultural Studies	MCC103	有元 健 ARIMOTO, Takeshi
言語学入門 II Introduction to Linguistics II	LNG102	吉田 智行 YOSHIDA, Tomoyuki
近代日本とICU Modern Japan and ICU	HST224	スティール, M. ウィリアム STEELE, M. William
欧州の政治と国際関係 Politics and International Relations in Europe	IRL235	植田 隆子 UETA, Takako
AY 2014		
H1: 美術の世界 H1: The World of Art	GEH002	伊藤 亜紀 ITO, Aki
H1: 文学の世界(A) H1: The World of Literature (A)	GEH022	生駒 夏美 IKOMA, Natsumi
N1: 生命科学(A) N1: Life Science (A)	GEN001	小林 牧人 KOBAYASHI, Makito / 小瀬 博之 KOSE, Hiroyuki / 河内 宏 KOUCHI, Hiroshi / リッジ, ロベルト W. RIDGE, Robert W.
N1: 数学の方法 N1: Mathematical Methods in Science	GEN024	鈴木 寛 SUZUKI, Hiroshi
N1: 自然科学総合演習 N1: Senior Integrating Seminar in Natural Sciences	GEN041	ヒッツェル, エクハルト HITZER, Eckhard 土屋 あい子 TSUCHIYA, Aiko / 河内 宏 KOUCHI, Hiroshi
N1: 自然の化学的基礎 N1: The Chemical Basis of Nature	GEN013	久保 謙哉 KUBO, Kenya
S2: 環境研究 S2: Environmental Studies	GES092	小林 牧人 KOBAYASHI, Makito / 布柴 達男 NUNOSHIBA, Tatsuo / 山本 良一 YAMAMOTO, Ryoichi
S2: アメリカ学 S2: Introduction to American Studies	GES069	大西 直樹 ONISHI, Naoki
代数学 I Algebra I	MTH331	鈴木 寛 SUZUKI, Hiroshi
ジェンダー研究へのアプローチ Approaches to Gender Studies	GSS101	有元 健 ARIMOTO, Takeshi / 生駒 夏美 IKOMA, Natsumi / 加藤 恵津子 KATO, Etsuko
国際貿易 International Trade	ECO256	モンゴメリー, ヘザー MONTGOMERY, Heather
言語学入門 I Introduction to Linguistics I	LNG101	吉田 智行 YOSHIDA, Tomoyuki
公共政策入門 Introduction to Public Policy	PPL101	ナギ, スティーブン R. NAGY, Stephen R.
近代日本とICU Modern Japan and ICU	HST224	スティール, M. ウィリアム STEELE, M. William
言語学特別研究 I Topics in Linguistics I	LNG390	宮川 繁 MIYAGAWA, Shigeru

* 公開している動画には、既に退任されている教員の授業も含まれます。
* Note that videos of the retired professors are included.



From the Alumni House

アラムナイハウスから

photo by Ryosuke Yamada

3期会報告

文：栗山昌子 (3=中島)



秋も深まる昨年11月7日、卒業後56年を迎えた3期生はアークヒルズクラブの1室で3期同窓会を開催しました。米国から駆けつけた2人を加え、全員30人の参加者でした。当時の卒業生は140人弱だったと思いますから、皆さんよく頑張りました。1人ずつそれぞれ現状報告などのスピーチを聞きながら、ランチを楽しみ、和やかな雰囲気の中で散会いたしました。年代を経ても、ありし日の面影は残っており、共に過ごしたキャンパスに互いに思いを馳せたひとときでした。

後日、当日の様子は映像となり、3期ネットで公開されたので、当日参加できなかった同期生も臨場感を持って見ることができ、また、参加した者も再度楽しめました。3期は“3期ネット”を開設しており、自宅にしながらお互いに情報交換がなされています。海外で見ている人、毎日見ている人、たまに見る人、それぞれですが、ICUの情報や興味ある記事のpdfでの紹介、お勧めの本など、特に、最近では、富士山の見える場所に在住の同期生による雪を頂く富士の映像が公開されて皆の目を楽しませています。

22期生 卒業40周年 リユニオン開催に向け始動

文：尾崎正明 (22 ID78)



2018年の卒業40周年に向けてまずは各セクションの名簿を整備して、懐かしい仲間と連絡を取り合って、40周年には多くの仲間たちと学び舎で再会しようと、各セクションのまとめ

役が集まり準備を始めました。

セクションとの連絡が取れていない方がおられましたら、尾崎宛 (higenosukejp@yahoo.co.jp) にセクション名、連絡先(メールアドレス)をお知らせください。

43期会報告

文：大西菜穂子 (43 ID99)



昨年4月5日ダイアログハウスにて、初めての43期(ID99)リユニオンを開催いたしました。入学20周年記念ということで企画しましたが、ご家族含め約150人のご参加を頂き、大いに盛り上がりました。

当日は同期の小泉明郎くん(現代美術家)のインスタレーション作品紹介や、リチャード・ウィルソン先生をお招きしてアーティスト・トークも行いました。また、西尾隆先生や小島康敬先生もご参加下さり、とても楽しい会となりました。

会費の一部を桜募金としてICUに寄付することができましたので、次回卒業後20周年の開催時(予定)には滑走路の桜を楽しみに集まれたらと思っています。

ICU Reunion in 香川の報告

文：浜崎直哉 (37 ID93)



昨年12月6日17時より、高松市内の湊バルにて、香川県で初となるリユニオンを開催いたしました。ID83からID11までの7人の方にご出席いただき、在学時の思い出や、今の仕事の話など尽きなく楽しい時間を過ごすことができました。会の中で、また集まりたいという話も出ましたので、時期が来たら、次の開催をまた考えてみるつもりです。

UK Drinks&Dinner報告

文：田中清彦 (14) 見形かおり (46 ID02)



昨年11月12日午後6時から本年最後のICU AA UKドリンクが開かれました。今回は同月14日にThe Royal Societyにて開催されるExperience Japan Exhibitionに参加のため訪英された伊東辰彦養学部長および池ノ内健司学部長特別補佐の歓迎会を兼ねた集まりとなり、本年最多の21人(うち現役学生2人)が参加しました。数時間前にヒースロー空港に到着されたばかりのお二人は、長時間のフライト後にも拘らず午後6時半に会場に到着され、ドリンク、ディナー、その後のコーヒー終了まで同窓生と歓談されました。参加した同窓生もいろいろな話題で盛り上がり会場のDavy's Wine Barを後にしたのは午後11時間近でした。

デンマーク支部会報告

文：小林香織 (41 ID97)



筆者が勤務するデンマーク、コペンハーゲン近郊にある東海大学ヨーロッパ学術センターでは、昨年10月31日、11月1日の2日間にわたり、日本語教育ワークショップが開催されました。このワークショップは、ICU同窓生で東海大学国際教育センター教授の谷口聡人さん(23 ID79 G1995)が、今年の春までの5年半、同センターの所長をなさっていたころから年に2回開催されているものです。毎回違ったテーマを設け、北欧を中心にヨーロッパ各国から日本語教育に携わる方々が参加し、講義やワークショップ、研究発表などを通じ、日本語教授法について切磋琢磨なされています。

第12回となる今回、国際教養大学特任教授・

鮎澤孝子さん(8 G1969)を講師にお迎えし、谷口さんも日本から駆けつけられたほか、ユトランド半島のオーフス大学からお一人、そして対岸スウェーデンのルンド大学から村尾佐和子さん(28 ID84)、石原慎一郎さん(40 ID96)も参加され、総勢6人の同窓生がそろう機会となりました。

ヨーロッパの小国にいながら、ICUネットワークを通じて得られるご縁、そして各地で日本語教育の水準向上に取り組む皆さんの情熱から、たくさんの元気をいただいた週末でした。

とちぎ支部会報告

文：荒川朋子 (33 ID 89)



昨年11月7日、那須塩原市のアジア学院で、ICU同窓会第14回とちぎ支部会を開催しました。今回は講師の安積力也さん(12)を含め1期から57期まで18人の卒業生、PEの丹羽芳雄先生と化学の田坂興亜先生、卒業生の同伴者3人の23人が集うことができ、初めての方も、同伴者を含め6人迎えることができました。

午前中の近況報告の後、アジア学院の学生やボランティアと一緒に日本では「珍しい」料理を楽しみ、午後からは講師である安積さんのお話を伺いました。

『「待つ」ということ—“大人の闇”を子どもに引き負わせないために』というタイトルで、長年キリスト教主義の学校で教鞭を執られてきた経験に基づいて、『待つ』ことができない子ども、親、教師たち、子どもや大人は何を恐れているのか、それが心にどう影響しているのか、などについて2時間にわたってお話しいただきました。参加者の皆さんからの質問やご意見・ご感想、それに対する安積さんのお答えや追加説明なども活発に行われ、日もとっぷり暮れる頃の解散となりました。講師の安積さん、長時間にわたってお話しいただき本当にありがとうございます。参加者、特に県外や県南部からお越しの皆様、早くから遅くまでありがとうございます。

北陸支部の集い報告

文：中谷裕子 (25 ID81)



昨年10月10日、金沢東急ホテルで開催された北陸支部の集いに福井・石川・富山の3県から卒業生18人が集まった。前回北陸地区初の金沢でのICUオープンキャンパスに合わせ、日比谷潤子学長はじめ大学・同窓会本部からのゲストをお迎えしての開催から3年。今回は、昨年4月に地元金沢の北陸学院大学学長に就任された町田健一先生(G1976)の歓迎会の意味も込めたものであった。参加者は6期生から卒業したの58期生まで幅広く、子どもたちも交えてアットホームな雰囲気の中、新旧の話題に花が咲いた。参加者の一人、北陸学院中学高校の聖書科教員として昨年着任された矢澤勲太さん(43)は、お父上と二代にわたりICUで古屋安雄先生に学び、先生によってお二人は伝道者として歩む道へと導かれたという。

そんな北陸支部に突然の訃報が届いたのは、この会から1カ月も経たない11月7日のことだ。北陸支部の生みの親、星野命先生が天に召されたのである。25年前の1990年、ICUをご退職後、生まれ故郷の金沢で北陸学院院長兼短期大学学長に就任された先生は、程なく6期の斎藤幸子さんと共に北陸支部を立ち上げ、以来ほぼ毎回参加しメンバーと親しく交わってこられた。10月の集いでは、星野先生が入院中であることが席上知らされ、皆で早いご退院を祈った矢先のことであった。星野先生には在学中からお世話になった者のみならず、幼少の頃、北陸学院のキャンパスで先生に遊んでいた若い卒業生たちもおり、88年の生涯を通して、本当に多くの生徒・学生に慕われる存在であったことが今更ながら実感される。この場をお借りして天上の星野先生の平安をお祈りし、心より感謝を捧げたいと思う。

Olden Gate Quartet 300歳記念コンサート@広島

文：三木勝子 (13)



1963年、ICUグリークラブのメンバーであ

った小菅敏夫さん(8)、池央歌さん(8)、河村栄一さん(6)、田中裕さん(6)が2000年に結成したグループOlden Gate Quartet (OGQ)のコンサートが、昨年10月31日広島市の東区民文化センターのホールで開催されました。

地元在住の6期生、岩田啓作さんが同じグリークラブに所属していたご縁で、広島での開催にむけ尽力されました。お蔭で4人の合計の年齢が300歳という節目のコンサートをお祝いでき、広島同窓会には嬉しいイベントとなりました。一昨年5月には広島流川教会で広島の女声合唱団The Sweet Resonance (SR)とのジョイント・コンサートを初めて開催しました。今回はSRが賛助出演してくださり、2ステージとOGQとの合同演奏(混声合唱)とアンコールというジョイント・コンサート並みの演奏とコンサートの準備段階から積極的にサポートして下さいましたことにより大成功の300歳記念コンサートとなりましたことは広島同窓会とってこの上ない喜びでした。

ICU二胡会、発足しました!

文：岩澤恵美子 (26 ID82)



昨年のアラムナイニュース春号(Vol.123)掲載の「卒業生で二胡の愛好家はいらっしゃいませんか?」の呼びかけに、年代も二胡歴も違う同窓生の二胡愛好家数人から連絡がありました。以来、顔合わせの会食、第1回練習会、第2回練習会、と二胡合奏やICUにまつわるおしゃべりを楽しんでいます。

ご興味がおありの方は niko.niko.icu@gmail.comへ、卒業年(ID)とお名前、二胡歴などをお知らせ下さい。また、二胡に親しんでいる卒業生をご存知の方は、是非ともこの記事のことをお伝え下さい。勿論、老若男女も国籍も問いません!

いつか二胡の優しく美しい音色を皆さまにお届けする機会に恵まれますように…と、楽しみながら精進して参ります。

ICUICUの会第1回総会のご案内

文：土橋喜人 (35 ID91)



昨年9月にICU同窓会の正式な支部として、ICUICUの会が発足いたしました。ICUICUの会とは、ICU出身(院・大・高)の国際協力(International Cooperation)関係者の交流を目的とし、国際協力を生業とする/関心ある関係者(原則社会人)を会員とします。

●参加連絡先:

icuiu-chapter@icualumni.com

<https://www.facebook.com/groups/260732654115164/>

会の発足を記念して昨年10月に軽く集まりました(写真)。今年4月には下記のとおり、アラムナイハウスで第1回目の総会を開催予定です。上述の方であれば参加可能です。ぜひ、お気軽にご参加いただければと思います。

<第1回総会の開催>

●日時: 2016年4月10日(日)

14時~17時(予定)

●場所: ICUアラムナイハウス

●会費・申込み方法など:

ICU同窓会Webサイトに掲載予定

寄付者御芳名

村上陽一郎 ICU 名誉教授

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

貴重な御寄付を賜り、誠にありがとうございました。

MISSING たずね人

池田英人 (35 ID91)

深見淳 (43 ID99)

田中智己 (49 ID05)

森田雄太 (52 ID08)

古川真宏 (53 ID09)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

星野命 ICU名誉教授

山本厚子 (4)

今野成 (4)

馬岡真人 (5)

鈴木琢磨 (5)

宗像治喜 (7)

勝野正恒 (8)

音川侃子 (10)

中村貴子 (11)

仲田和来 (32 ID88)

志関義昭 (G1975)

心よりお悔やみ申し上げます。

2016年秋号のアラムナイニュースの臨時休刊を検討しています。

同窓会活動は、会員・準会員の皆さんの会費で賄われています。

ここ数年、同窓会終身会費納入率が低下してきたため、2016年度のICU同窓会は大赤字を見込んでいます。基金もありませんので即財政危機に陥るわけではありませんが、手遅れにならないうちにと抜本策を含め財政改革を進めているところです。その一環として、今年度は秋号のアラムナイニュースを一旦お休みとさせていただきますことを検討しています。

代わりにWebサイトやFacebookなどでの情報発信に力を入れていきたいと思えます。

ご愛読いただいている皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ICU同窓会会長 木越純

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください。

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオンなどの案内・報告をお寄せください。本誌およびWebサイトに掲載いたします。

★ 住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール(aaoffice@icualumni.com)または同窓会のWebサイトの住所変更から、ご一報ください。地方・海外に転勤などの際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

■同窓会 Web サイト

<http://www.icualumni.com/>

同窓会 Facebook

<https://www.facebook.com/icualumniassociation>

大学 Web サイト <http://www.icu.ac.jp/>

JICUF Web サイト <http://www.jicuf.org/>

■ ICU 同窓会事務局

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320

E-mail: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部 (アラムナイニュース編集部)

E-mail: kohou@icualumni.com

卒業したその後も...

保険代理店
業務

キッズ・キャンプ
キッズ・カレッジ

結婚式サポート
イベントサポート

賃貸不動産
紹介

(株) ICU サービスは ICU100% 出資による事業子会社です。

株式会社 ICU サービス

国際基督教大学 本部棟 2 階
Mon-Fri 9:00-12:00, 13:00-17:00
TEL: 0422.33.3530 MAIL: info@icu-service.com

ウェディング・レセプション承ります

ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。
同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、
ぜひご相談・お問い合わせください。

東京ケータリング (株) ICU 食堂

TEL&FAX 0422-33-3519 携帯 080-3117-3203
e-mail: tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

桜祭りのご案内

桜の下で会いましょう!

Let's Get Together at ICU SAKURA Festival

3月26日
(土)

春の訪れを告げる同窓会「桜祭り」を下記の通り開催いたします。今回で11回目を迎える同窓会「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会など、さまざまな企画を統合した同窓会の総合イベントです。今年は10期生の方々をお招きして、卒業50周年をお祝いいたします。

同窓生が作るICUワインや日本酒「ばか山」をはじめ、さまざまなICU同窓会グッズもご用意して、多くの皆様のお越しをお待ちしております。

当日の様子はインターネットによるストリーミング配信でご覧いただける予定です。詳細は同窓会Webサイトなどでお知らせいたします。

2016年 ICU 桜祭り

開催日：2016年3月26日(土) 場所：ICUキャンパス内

総会・DAY賞表彰式・10期生の卒業50周年記念式典(礼拝堂)

10:00開場 10:30開始 12:20 プログラム終了予定

懇親会(大学食堂)

12:30～14:00(予定) 参加費：4000円(卒業生) 1000円(在学生)

☆2015年夏・2016年春卒業の皆様はご招待(無料)させていただきます。

総会・懇親会出欠を、以下いずれかの方法で3月13日(日)までにご連絡ください。

・インターネット送信

同窓会Webサイト<http://www.icualumni.com/?p=3834> からご登録いただけます。

携帯・スマートフォンからはQRコードもご利用いただけます。 →

・電子メール sakura@icualumni.com

・ファックス/電話 0422-33-3320

・左下の返信用はがき(切り取り、はがきに貼ってご利用ください。3月13日 消印有効)

はがきの宛先：〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2 ICU同窓会事務局

このはがきを切り取ってFAXで送ることもできます。



※10期生の皆様へ

1月に別途郵送済みの往復はがきにてご返信ください。

なお、同窓会正会員の方で、総会資料を事前に入手されたい方は、同窓会事務局からご登録の送付先住所に郵送いたします。

上記の問い合わせ先までご連絡ください。

2016年桜祭り 同窓会総会・懇親会

お願い：同窓生の方は一人一枚お出しください

*総会(於：礼拝堂)に 出席 ・ 欠席

ご欠席の正会員(卒業生)の方は以下ご確認ください。

議決権は 氏(期)に委任します。

空欄の場合は議長に委任とさせていただきます。

*懇親会(於：大学食堂)に 出席 ・ 欠席

同窓生以外の同伴者の数 人

ご住所 -

お名前 ふりがな

旧姓： (期)

2016年 DAY 賞 受賞者

茅野 徹郎 CHINO, Tetsuo (1)

1957年ICU卒業後、商社勤務を経て本田技研工業に中途入社。ICUのリベラルアーツ教育を実業界で実践。アメリカホンダ社長、本社代表取締役専務を歴任し退社。退職後日米協会専務理事として日米関係に貢献。ICU総務理事・財務理事として大学の財政基盤健全化に尽力。創立50周年記念募金の事務局長を務め、またFriends of ICUの発案・実現を図った。

森枝 卓士 MORIEDA, Takashi (22 ID78)

1978年ICU卒業後、フォトジャーナリストとして東南アジアに軸足を置き世界各地取材。食文化の視点から写真・レポート・書籍を多数発表。2014年出版の「食べているのは生きものだ」は食の大切さを教えるとともに、命の大切さや人生の楽しみかたを伝えている。

堀内 佳美 HORIUCHI, Yoshimi (51 ID07)

生まれつきほぼ全盲。中学時代英語に出会い、初めて聞く発音と世界が広がる可能性に興味を持つ。高校時代留学先の米国でタイ人と知り合いタイ語を勉強。2007年にICU卒業後、証券会社で翻訳管理者として勤務。その後インドでNGO運営のノウハウを1年間学んだ後、タイ農村部で読書の楽しさを広める非営利法人「アークどこでも本読み隊」を発足させ、図書館と幼児教育センターの運営に尽力している。

STAFF

EDITOR IN CHIEF

岡田庄生 OKADA, Shoo (47 ID03)

MANAGING EDITOR

北川直子 KITAGAWA, Naoko (45 ID01= 平澤)

EDITORS

山岡清二 YAMAOKA, Seiji (6)

望月厚志 MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82)

石井雅仁 ISHII, Masato (30 ID86)

栗山のぞみ KURIYAMA, Nozomi (34 ID90)

樺島榮一郎 KABASHIMA, Eiihiro (37 ID93 G1997)

野仲裕子 NONAKA, Yuko (48 ID04)

吉川優子 YOSHIKAWA, Yuko (50 ID06= 中部)

堀内佳菜 HORIUCHI, Kana (51 ID07)

飯泉文子 IIZUMI, Ayako (51 ID07)

長橋典子 NAGAHASHI, Noriko (51 ID07)

小林智世 KOBAYASHI, Tomoyo (52 ID08)

水野愛子 MIZUNO, Aiko (62 ID18)

PHOTOGRAPHERS

一之瀬ちひろ ICHINOSE, Chihiro (42 ID98)

細谷修三 HOSOYA, Shuzo (58 ID14)

PRINTING DIRECTOR

杉浦健一 SUGIURA, Kenichi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

松島真理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

木越 純 KIGOSHI, Jun (27 ID83)

表紙写真 (カラー) : 山田竜甫 YAMADA, Ryosuke (49 ID05)

DAY賞候補者をご推薦ください

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国際基督教大学に在籍したことのある方(卒業生・留学生・教職員。ただし故人は対象外とする)の中から、大学および同窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるために贈呈されます。推薦は年間を通して受付けておりますが、受賞者は毎年桜祭り開催の前年10月15日受付分までを対象とします。推薦に関する事実は、本人に確認を得た場合を除き公開されません。受賞

※必要事項

- ・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年(分かる範囲で)
- ・推薦理由(新聞記事などの客観的資料があれば併せてお送りください)
- ・あなた(推薦者)の氏名と卒業年
- ・あなた(推薦者)の住所・電話番号・E-mailアドレス

※歴代受賞者名と略歴は、同窓会Webサイトに掲載しております。

→<http://www.icualumni.com/?p=1071>

者は同窓会Webサイトでの発表およびアラムナイニュースにてお知らせいたします。

皆様からのご推薦をお待ち申し上げております(自薦・他薦を問いません)。

Webサイト DAY Award より「DAY賞候補者をご推薦ください」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、ICU同窓会事務局宛てにお送りください。

E-mail/Tel/Fax/郵送で受付けております。

ICU同窓会事務局

〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2

TEL&FAX : 0422-33-3320

E-mail : aaoffice@icualumni.com

同窓生向けメールサービス「@alm.icu.ac.jp」のご案内

2015年度より、大学では学生・教職員のコミュニケーションツールとしてGmail (@icu.ac.jp) が採用され、卒業する際には全員に卒業生用アドレス (@alm.icu.ac.jp) が付与されるようになりました。これに伴い、2014年度以前の卒業生にも卒業生用アドレスを提供できること

になりました。

同窓生用のドメインは@alm.icu.ac.jp(大学などの高等教育機関向けであるac.jpのサブドメインです)。同窓生は無料でお使いいただけます。是非ご利用下さい。

※@icu.jpおよび@alm.icu.jpをお使いの皆様へ。

同窓会では、2011年からYahoo! Japanの提供するメールサービスを提供していましたが、Yahoo! Japanによる同サービスの終了に伴い、同窓会からのサービスも終了させていただくことになりました。ご利用いただいていた皆様にはご迷惑をおかけいたします。ぜひ新しいGmail版メールサービスへの移行をお願いいたします。サービス終了日以降は、@icu.jpおよび@alm.icu.jpでのメール送受信はできません。

サービス最終日：2016年6月30日(木)

詳しくは、<http://www.icualumni.com/mailservice/> で

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまのために制作しているものです。今後の制作の参考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物の紹介などがある方は、メールにてお気軽に事務局までお知らせください。

広報部員募集

あなたの経験を同窓会の広報活動に活かしてみませんか?企画、取材、執筆、撮影、編集進行などを一緒にやっていただける方を大募集中です。もちろん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら広報・メディアのプロから直接技術を学べます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

同窓会福利厚生プログラム WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェルによるWELBOXという福利厚生プログラムを導入しています。会員制リゾートホテル・ハーベストが利用できるほか、映画や東急ハンズの割引など、多様な優待プログラムが準備されており、同窓会員本人だけでなく、兄弟や子ども、孫、祖父母まで利用することができます(2親等以内の家族)。

同封のパンフレットをご一読のうえ、ぜひ積極的にご利用ください。

